

18歳から29歳までの東近江市民対象  
選挙に関する意識調査結果報告書

令和6年4月

東近江市選挙管理委員会  
東近江市明るい選挙推進協議会

## 目次

1	調査の概要	1
2	調査の結果	3
	(1) 回答者の属性	
	問1 学生、社会人等の要素	3
	問2 年齢	3
	(2) 投票の頻度及び投票をしない理由	
	問3 投票の頻度	4
	問4 投票をしない理由	5
	(3) 選挙啓発	
	問5 特定の選挙における認知度	7
	問6 選挙啓発等の効果	8
	問7 選挙啓発等で期待する新たな手段	10
	(4) 投票の動機	
	問8 投票をする動機になるもの	12
	(5) 特定の選挙における投票の実績等	
	問9 特定の選挙における投票の実績	14
	問10 特定の選挙において投票をした候補者を選んだ理由	15
	(6) 候補者の考えに対するとらえ方	
	問11 候補者の考えを知るためにとった行動	16
	問12 候補者の考えを知ろうとした手段	17
	問13 候補者の考えを知ろうとしない理由	18
	(7) 選挙における親（家族）との関わり	
	問14 親（家族）の投票の頻度	20
	問15 親（家族）から投票に行くように言われた経験	22
	問16 親（家族）と政治や選挙のことについて話した経験	24
	(8) 参加したいと思う取組	
	問17 政治や選挙に関して、参加したいと思う取組	26
	(9) 選挙制度に対する認知度	
	問18 期日前投票制度の認知度	28
	問19 いずれの期日前投票所でも投票ができることの認知度	28
	(10) 支持政党等	
	問20 支持している政党の有無	29

問21	支持している政党に対する支持の程度	29
(11)	投票率を上げるための取組	
問22	投票率を上げるための取組（自由記述）	30
3	総括	41
4	調査票	44

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本市では、10代及び20代の投票率が他の年代と比べて低い傾向にあります。令和5年4月9日に執行された滋賀県議会議員一般選挙において、投票率が最も高い70歳から74歳までは投票率58.89パーセント（投票者数4,726人）であるのに対し、20歳から24歳までは投票率20.66パーセント（投票者数1,091人）でした。

このような状況を踏まえ、若年層の投票率の向上につなげるため、18歳から29歳までの市民を対象に選挙に関する意識調査を実施しました。

### (2) 調査対象

本市の選挙人名簿に登録されている18歳から29歳までの2,400人（各年齢当たり200人を無作為に抽出）を対象としました。

### (3) 調査期間

令和5年10月27日から同年11月27日まで

### (4) 調査内容

投票についての意識、選挙の啓発活動等に関する設問（全22問）

### (5) 回答方法

インターネット又は書面のいずれかの方法を選択

#### ア インターネット

対象者全員に郵送する依頼文に記載している二次元コードをスマートフォン等で読み取り、フォームから回答

#### イ 書面

書面での回答の申出があった者に郵送する紙の調査票に回答を記入し、返信用封筒で返送

### (6) 回答状況

調査依頼の配布数2,400件に対し、宛先不明として返送されてきたものが9件あり、到達した調査依頼の配布数は2,391件でした。インターネットで回答があった件数は489件、書面で回答があった件数は2件で、延べ491件の回答があり、回収率は20.54パーセントでした。

配布数			回収数			到達数に対する 回収率
2,400	到達数	2,391	491	インター ネット	489	
	不到達数	9		書面	2	

#### (7) 調査結果の表示方法

各設問において、それぞれの回答の数を表で示しています。また、分かりやすく比較するために、円グラフ及び棒グラフを使用するとともに、各設問の有効回答数（n）に対するそれぞれの回答の数を百分率（％）で示しています。

複数回答ではない設問にあつては円グラフを使用し、百分率については小数点第一位以下を四捨五入しているため、合計が100パーセントにならない場合があります。複数回答の設問にあつては棒グラフを使用し、百分率については小数点第二位以下を四捨五入しています。また、有効回答数（n）に対してどれくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が100パーセントを超える場合があります。

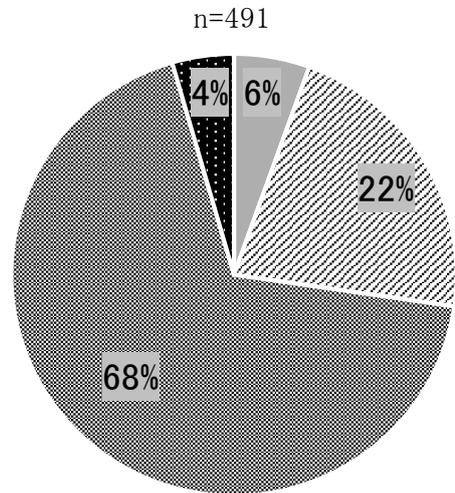
## 2 調査の結果

### (1) 回答者の属性

問1 あなたについてお伺いします。《○一つ》

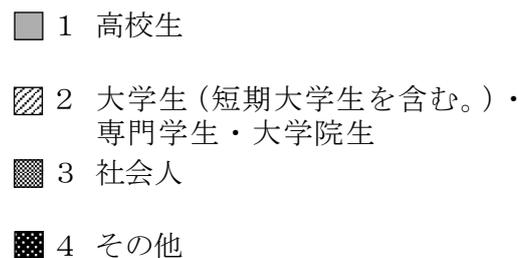
#### 回答者の7割が社会人

	(人)
1 高校生	27
2 大学生(短期大学生を含む)・ 専門学生・大学院生	107
3 社会人	335
4 その他	22



回答した人の属性は、「社会人」が335人で68パーセントを占めました。

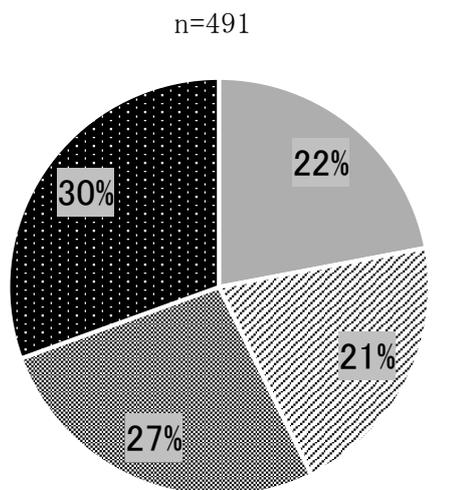
「大学生(短期大学生を含む)・専門学生・大学院生」は107人で22パーセント、「高校生」は27人で6パーセント、「その他」は22人で4パーセントでした。



問2 あなたの年齢を教えてください。《○一つ》

#### 回答者の3割が27歳から30歳まで

	(人)
1 18歳から20歳まで	108
2 21歳から23歳まで	102
3 24歳から26歳まで	131
4 27歳から30歳まで	150



回答した人の年齢は、「18歳から20歳まで」が108人で22パーセント、「21歳から23歳まで」が102人で21パーセント、「24歳から26歳まで」が131人で27パーセント、「27歳から30歳まで」が150人で30パーセントでした。

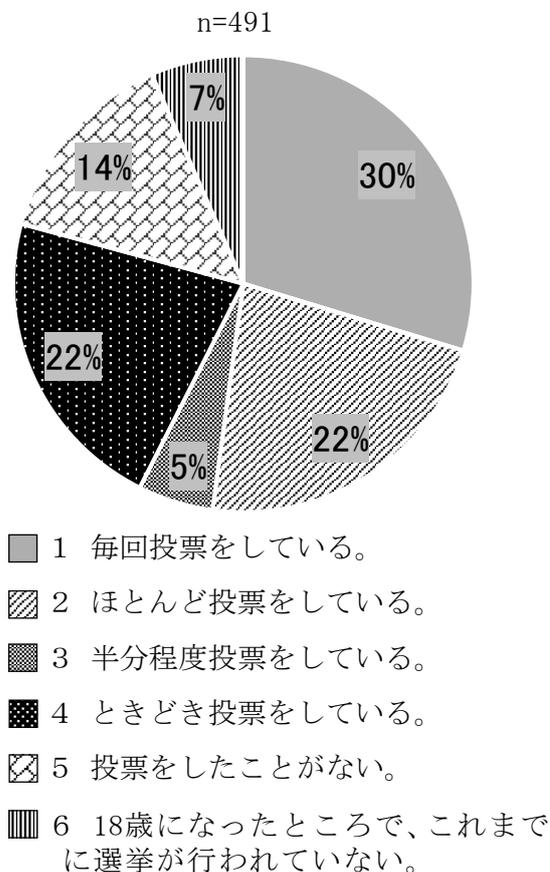


(2) 投票の頻度及び投票をしない理由

問3 あなたは、これまでの選挙において、どの程度投票をしていますか。  
《〇一つ》

**5割が毎回又はほとんど投票をしている**

	(人)
1 毎回投票をしている。	146
2 ほとんど投票をしている。	110
3 半分程度投票をしている。	26
4 ときどき投票をしている。	107
5 投票をしたことがない。	70
6 18歳になったところで、これまでに選挙が行われていない。	32

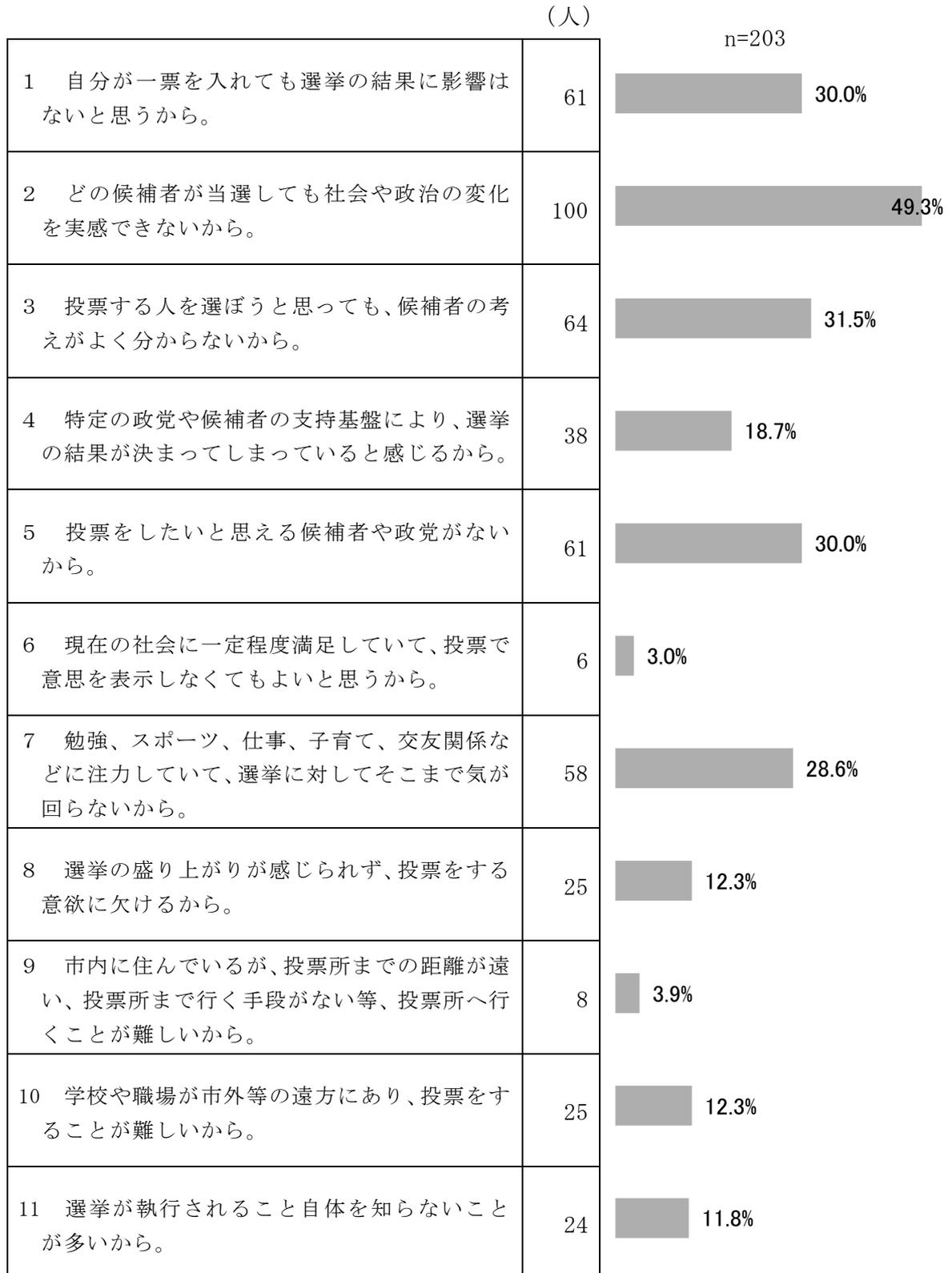


投票の頻度については、「毎回投票をしている」が146人で30パーセント、「ほとんど投票をしている」が110人で22パーセントとなり、合わせて52パーセントを占めています。令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙では、東近江市における18歳から29歳までの投票率は23.27パーセントであるため、当該調査には、各選挙で投票をしている人から比較的多くの回答を得ていることが分かります。

一方で、「半分程度投票をしている」が26人で5パーセント、「ときどき投票をしている」が107人で22パーセント、「投票をしたことがない」が70人で14パーセントとなり、合わせて41パーセントを占めており、各選挙であまり投票をしていない人からも一定数回答を得ていることが分かります。

問4 ※問3で「半分程度投票をしている」「ときどき投票をしている」「投票をしたことがない」と回答した人にお伺いします。  
 あなたが投票をしない理由は何ですか。《○三つまで》

**5割が「社会や政治の変化を実感できない」**



問3で「半分程度投票をしている」、「ときどき投票をしている」及び「投票をしたことがない」と回答した203人から、投票をしない理由について回答を得ました。

49.3パーセントの人が「どの候補者が当選しても社会や政治の変化を実感できないから」と回答しています。続いて、「投票する人を選ぼうと思っても、候補者の考えがよく分からないから」が31.5パーセント、「自分が一票を入れても選挙の結果に影響はないと思うから」及び「投票をしたいと思える候補者や政党がないから」が共に30パーセントとなっています。また、「現在の社会に一定程度満足していて、投票で意思を表示しなくてもよいと思うから」が3パーセントという低い割合となり、投票をしない人は、現在の社会に満足しているわけではないが、選挙を通じて社会や政治が変わることへの期待感が乏しい傾向にあります。

「市内に住んでいるが、投票所までの距離が遠い、投票所まで行く手段がない等、投票所へ行くことが難しいから」が3.9パーセントとなり、市内に住んでいる人で投票所に行くことが難しいと考えている人は比較的少ないものの、「学校や職場が市外等の遠方にあり、投票をすることが難しいから」が12.3パーセントとなり、不在者投票制度の手続の利便性の向上等を検討する必要があります。

**【投票をしない理由がある場合の自由記述（主なものを抜粋）】**

- ・面倒だから。ネットから投票できるようにしてほしい。
- ・選挙公約で言ってることとほぼ真逆なことされてるから信じられなくなっている。
- ・どれだけやっても高齢者のための政策しかしないから。
- ・選挙に対しての考え方、選び方が分からない。人に聞こうと思ってもセンシティブな内容なので聞きづらい。
- ・選挙立候補者の看板はよく見かけるが、名前と顔写真と〇〇党の情報くらいしか分からず、どの人に投票すればどういうことを実行してくれるのかが分からない。初めて選挙に行った時も事前に調べてネットで立候補者について見たが、情報収集できる場があまりないように感じた。
- ・そもそも投票してどのように変わっていくかなど仕組みが分からない。
- ・学校が県外で通学に時間がかかり、期日前投票にも行けない場合もあり、投票日はバイトなどで投票所に行く時間がない場合もある。

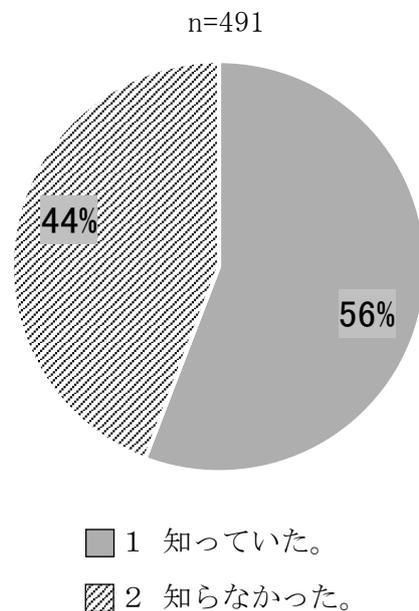
(3) 選挙啓発

問5 令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、あなたは、選挙があることを知っていましたか。《○一つ》

**4割が「知らなかった」**

(人)

1 知っていた。	274
2 知らなかった。	217

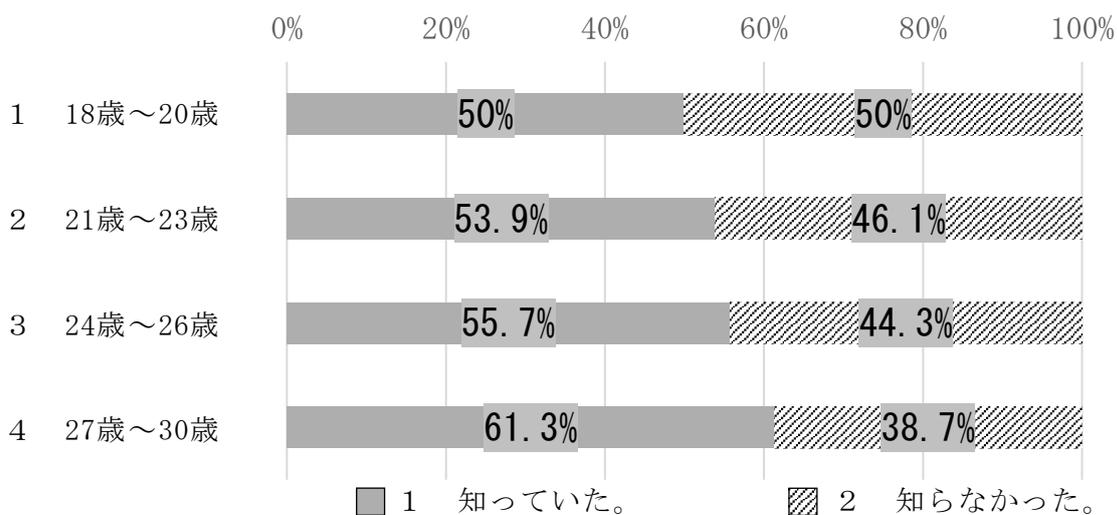


令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、選挙があることを「知っていた」と答えた人は274人で56パーセント、「知らなかった」と答えた人は217人で44パーセントでした。

約半数が知らないという状況を踏まえ、選挙の認知率の向上が求められます。

(人)

区 分	1 知っていた。	2 知らなかった。
1 18歳～20歳	54	54
2 21歳～23歳	55	47
3 24歳～26歳	73	58
4 27歳～30歳	92	58

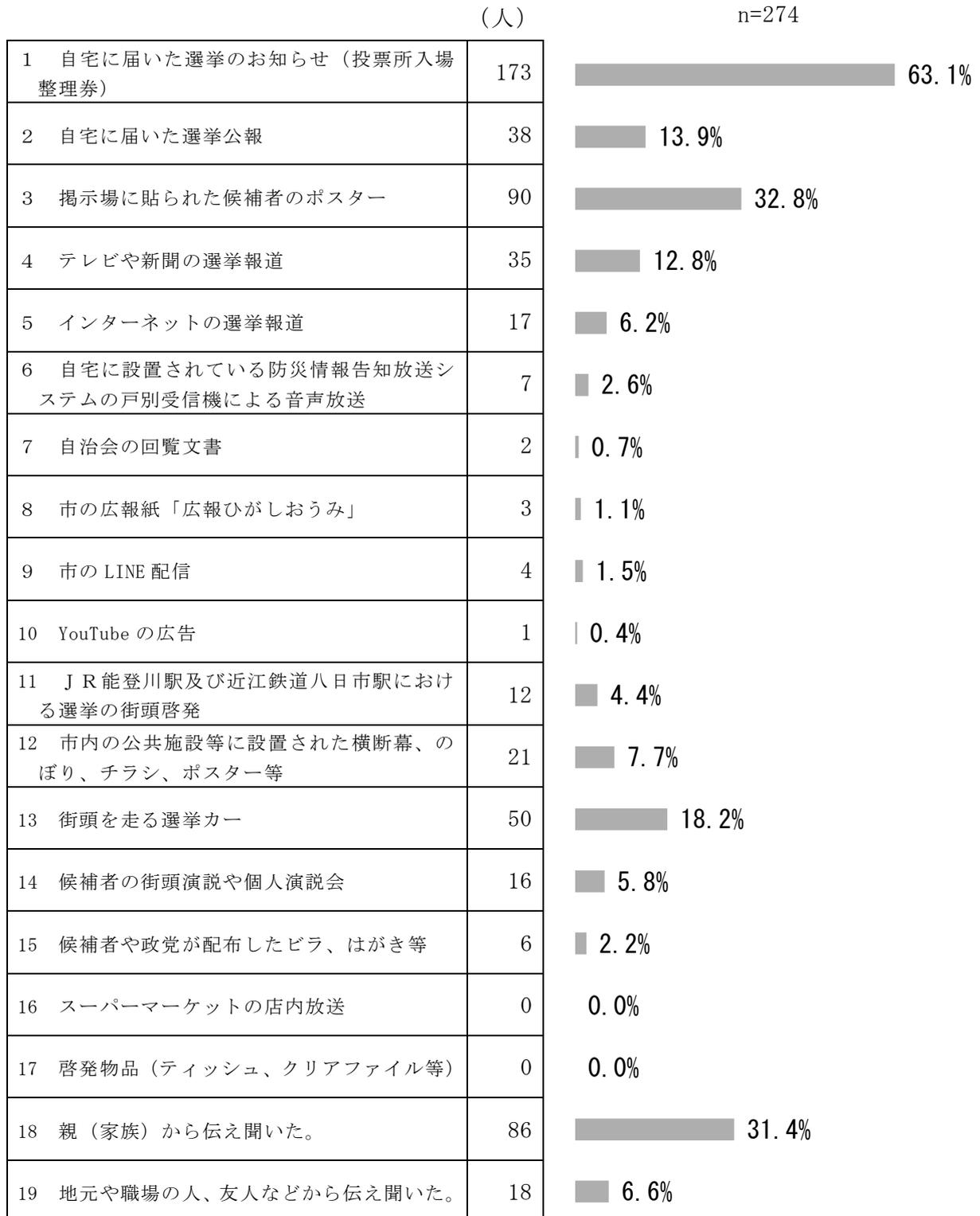


年齢別で回答を分類すると、年齢が低いほど「知らなかった」と答えた人の割合が多くなる傾向にあります。

問6 ※問5で「知っていた」と回答した人にお伺いします。

あなたは、令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙があることをどの方法で知りましたか。《あてはまるものすべてに○》

### 6 割が投票所入場整理券



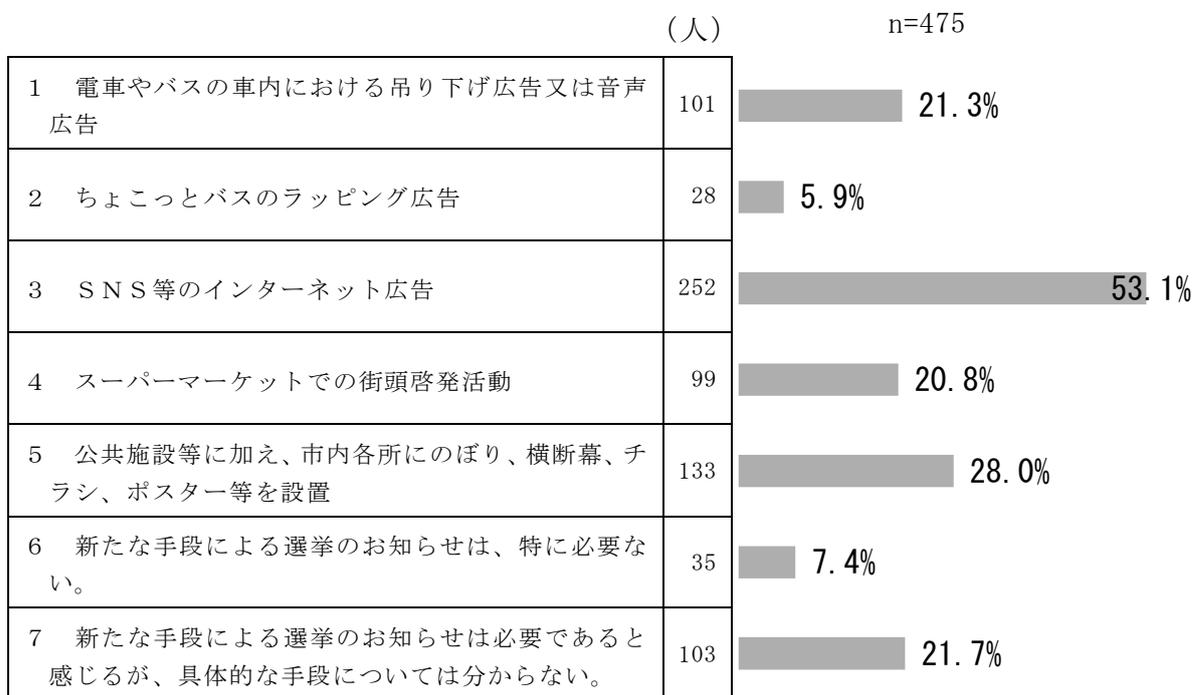
問5で令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙があることを「知っていた」と回答した274人から、当該選挙があることを知った方法について回答を得ました。

63.1パーセントの人が「自宅に届いた選挙のお知らせ（投票所入場整理券）」と回答し、選挙があることを認知する手段として最も有効であることが分かります。また、「掲示場に貼られた候補者のポスター」が32.8パーセント、「街頭を走る選挙カー」が18.2パーセント、「自宅に届いた選挙公報」が13.9パーセントとなり、日常生活の中で必然的に見る、聞くといった媒体は、割合が高くなっています。

一方で、「自治会の回覧文書」が0.7パーセント、「市の広報紙「広報ひがしおうみ」」が1.1パーセントとなり、情報を自ら主体的に取得する必要がある媒体は、割合が低くなっています。滋賀県議会議員一般選挙で初めて実施した「YouTubeの広告」が0.4パーセントであるものの、スマートフォン等を通じて容易に視認することにつながり、また、【問7】で「SNS等のインターネット広告」が啓発の効果があると回答した人が最も多いため、今後も積極的に運用していく必要があります。そのほか、認知につながりやすい投票所入場整理券、選挙公報等で選挙に関する情報を適切かつ効果的に伝える必要があります。

問7 あなたは、新たにどのような方法による選挙のお知らせがあれば啓発の効果があるとお考えですか。《あてはまるものすべてに○》

**5割が「SNS等のインターネット広告」**



効果があると思う啓発の方法について尋ねたところ、53.1パーセントの人が「SNS等のインターネット広告」と回答しました。スマートフォン等でSNS等を利用する時に、自らの意思とは別に表示されるインターネット広告が啓発に効果があると思われれます。

新たに行うことが望ましいと思う選挙のお知らせの手段に関する自由記述では、候補者の主張、公約等が一覧でまとまっているものの配布、配信等を望む意見が多くありました。また、公共交通機関以外で日常生活における移動をしているため、コンビニエンスストア等を活用してPRをできないかといった意見もありました。

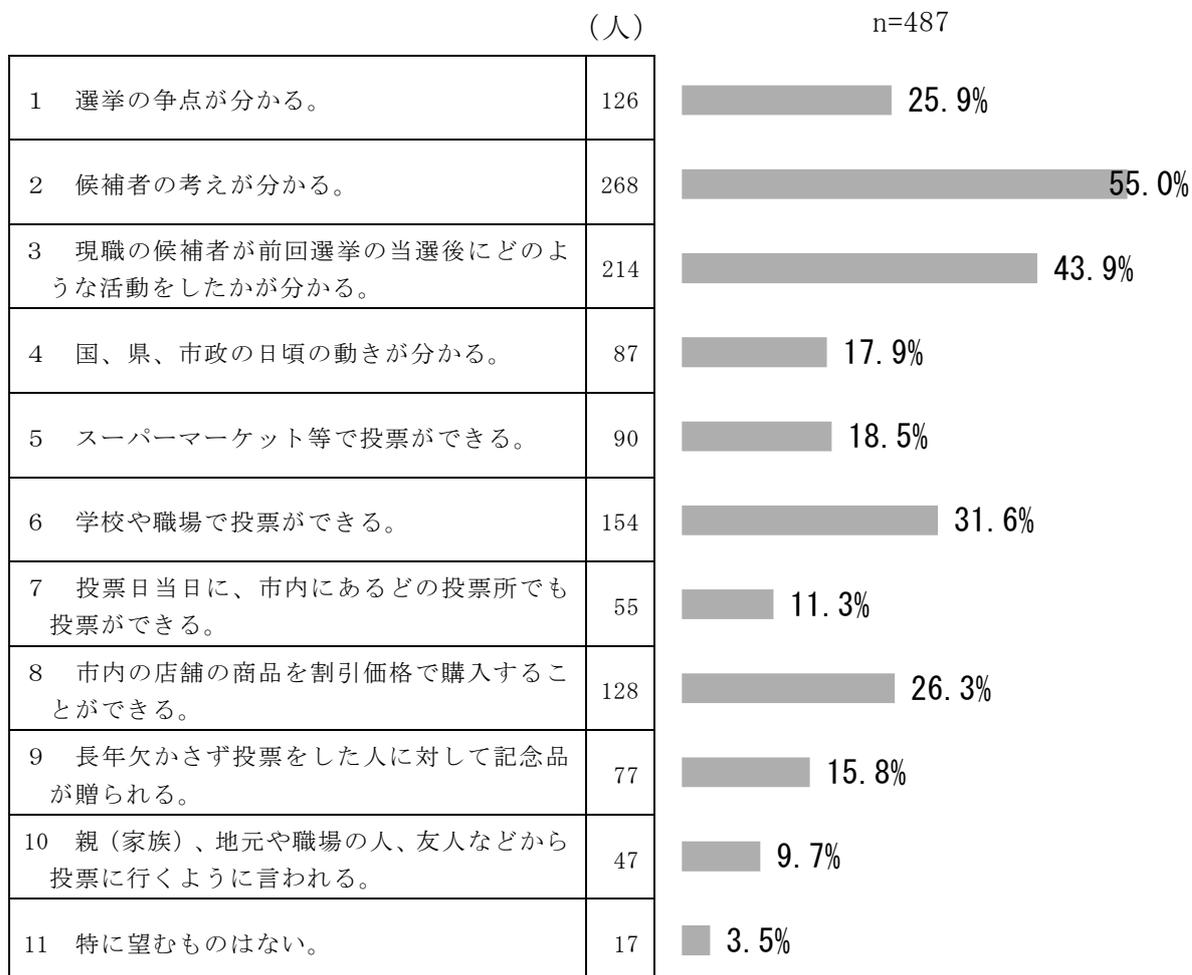
【新たに行うことが望ましいと思う選挙のお知らせの手段に関する自由記述（主なものを抜粋）】

- アプリにして、一人のユーザーにつき一人だけしか投票できないようにすればデジタルに疎くない若者の投票率は上がると思う。
- 通勤に公共交通機関を利用しないのでコンビニエンスストア、ドラッグストア、飲食店などで啓発活動すると良いのではないか。
- 期日前投票も制度として強調する方が、選挙に行きやすいと思う。
- 公開討論会を開催しやすくする仕組みづくり、選挙公報をカラー化、投票所を増やす。
- 東近江市の公式 LINE 等で選挙の実施を知らせ、立候補者の公約を同時に載せる。
- 選挙に行かなければ、という気持ちになる啓発動画の作成
- お知らせ以前に、みんなが変わったな！と思う政策をしたら政治に興味を持って選挙にも行くようになる。
- 若者に投票してほしいならば SNS を活用すべき。LINE、X、Instagram、TikTok。広報誌等は高齢者しか見ていない。
- 選挙があることを知らせるだけなら田に旗を設置すればよい。
- 学校等の掲示板に選挙広告を掲載したり、授業を行うなど年少期から選挙への意識改革を行う必要がある。
- 選挙があること自体は街中に出ているのであれば気付くと思うので、そこに今以上にお金をかけるべきではないと思う。
- スマートフォンに選挙の通知をしたり、スマートフォンから投票ができるようにする。

#### (4) 投票の動機

問 8 あなたは、選挙においてどのようなことがあれば、投票をしようと思えますか。《○三つまで》

#### 6 割弱が「候補者の考えが分かる」



どのようなことがあれば投票をしようと思うか尋ねたところ、「候補者の考えが分かる」が55.0パーセント、「現職の候補者が前回選挙の当選後にどのような活動をしたかが分かる」が43.9パーセントとなり、候補者の考え及び実績が分かれば投票をする動機になるという結果となりました。候補者の主張を掲載している選挙公報の認知度を高める必要があるほか、候補者の考えが分かる情報が若年層の選挙人に届く手法を検討する必要があります。

「学校や職場で投票ができる」が31.6パーセントとなり、在宅時間が少ない若年層の選挙人にとって、学校、職場で投票ができることを望む結果となりました。また、「市内の店舗の商品を割引価格で購入することができる」が26.3パーセントとなり、投票をすることに対し一定の誘因になることが分かります。また、各選択肢のほか、選挙においてどのようなことがあれば、投票をしようと思うかを尋ねた自

由記述において、スマートフォンで投票ができる環境の整備、候補者の考え及び実績が分かりやすくまとめられた情報の提供及び若年層の意見を代弁してくれる候補者を望む声が多く寄せられました。

【選挙においてどのようなことがあれば、投票をしようと思うかを尋ねた自由記述（主なものを抜粋）】

- ・立候補する候補者がこれまでにどんなことをして今回立候補をしようと思うかを決めたのか分かるようにしてほしい。
- ・スーパーで投票ができ、割引券等がもらえると行こうかなと思う。
- ・そもそも選挙に行くのはより良い政策を行って欲しいからだと思う。その点景品で釣ったりすることは意味ないと思う。もっと政治活動に興味を持てるような広報が大事と考える。政策をします！よりもこの政策でこんな良い点が生まれます！！とちゃんと言った方が分かりやすいと思う。
- ・候補者がどのような考えを持っているのか、もっと簡単に理解しやすくなって欲しい。少し話が難しいため判断が難しい。
- ・街頭演説などで実際に会うことで、候補者の考え及び人柄が分かれば、投票に意識が向かうかもしれない。
- ・若い世代、子育て世代を支援する公約を掲げている候補者が現れたら。また、選挙によって生活が豊かに変化したら。
- ・投票をすれば物品をもらえる（消しゴム、ペン、ギフトカード、ファイル、ポケットティッシュ等）。
- ・立候補者の考え、実績、人柄、意気込み、活動実績等が若者にも分かりやすくまとめられた情報があれば、それを基に投票できると思う。
- ・選挙に行くことに意味を生じさせることが重要だと思う。投票に行っても世の中がそんなに変わった実感がないので行く意義を感じないのが実際のところ。
- ・ネット投票や郵便投票など他地域、遠方からでも投票できるようにしてほしい。
- ・議員の方が前回の選挙時に掲げた公約がどれほど達成できているか、客観的な視点から同じ基準で達成度合を確認できるようにしてほしい。「これをやりました。」だけの選挙公報では、目標に対して任期中にどのように取り組んだか、判断できないため。

(5) 特定の選挙における投票の実績等

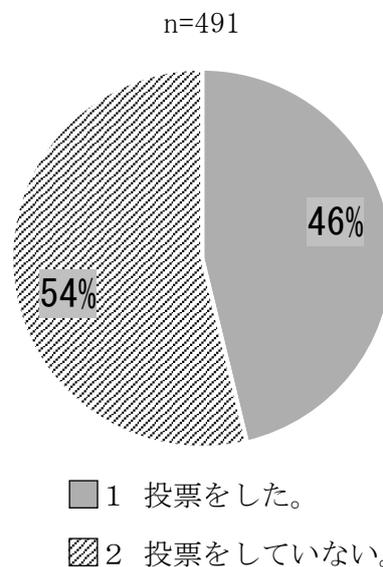
問9 令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、あなたは投票をしましたか。《○一つ》

**5割が「投票をした」**

	(人)
1 投票をした。	227
2 投票をしていない。	264

滋賀県議会議員一般選挙で投票をしたかどうか尋ねたところ、「投票をした」と答えた人は227人で46パーセント、「投票をしていない」と答えた人は264人で54パーセントとなりました。

令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙では、東近江市における18歳から29歳までの投票率は23.27パーセントであるため、当該調査には、投票をした人から比較的多くの回答を得ています。

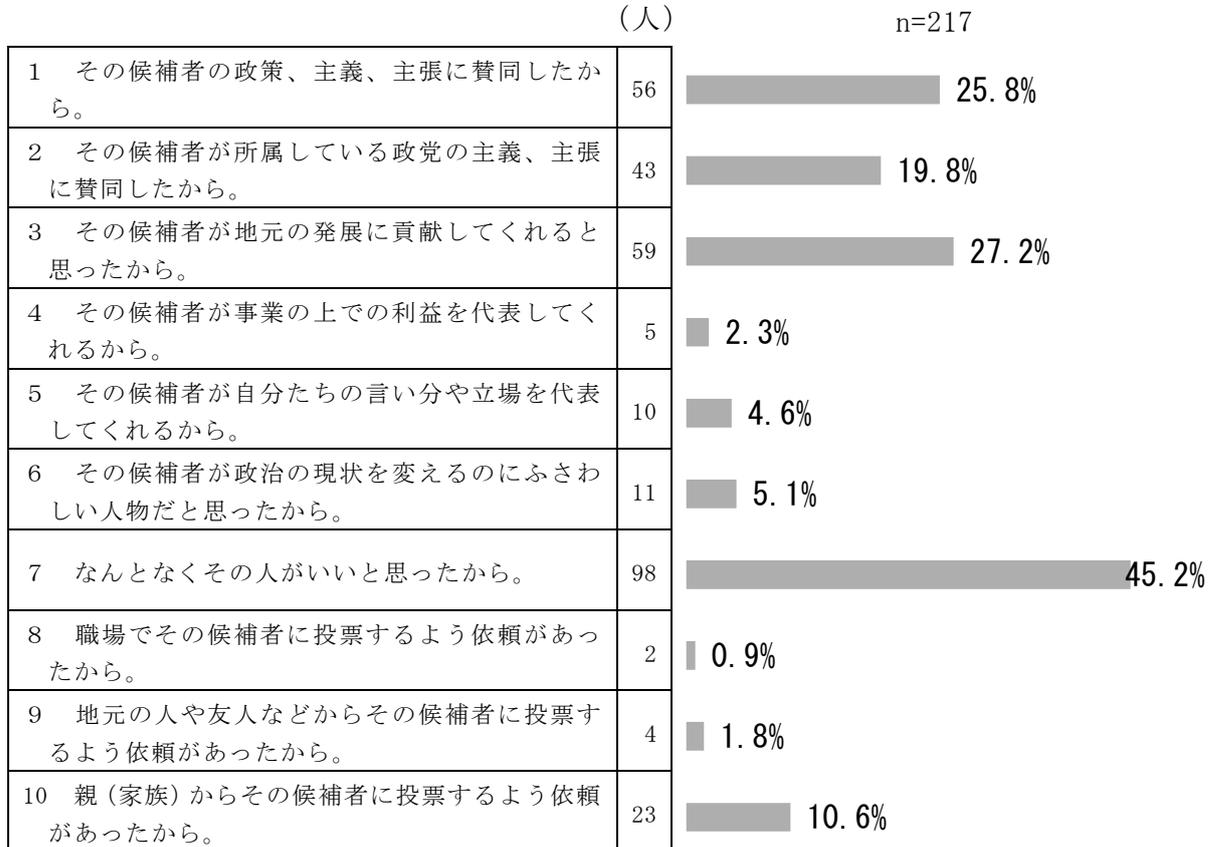


問10 ※問9で「投票をした」と回答した人にお伺いします。

あなたが投票をした候補者を選んだ理由は何ですか。

《あてはまるものすべてに○》

### 5 割弱が「なんとなくその人がいい」



令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙で投票をした人のうち、投票をした候補者を選んだ理由について、45.2パーセントの人が「なんとなくその人がいいと思ったから」と回答しました。続いて「その候補者が地元の発展に貢献してくれると思ったから」が27.2パーセント、「その候補者の政策、主義、主張に賛同したから」が25.8パーセント、「その候補者が所属している政党の主義、主張に賛同したから」が19.8パーセントとなりました。投票をした人は、政策、主義、主張及び地元への発展への期待を基に自ら判断している傾向にあることが分かります。

一方で、「その候補者が事業の上での利益を代表してくれるから」が2.3パーセント、「職場でその候補者に投票するよう依頼があったから」が0.9パーセント、「地元の人や友人などからその候補者に投票するよう依頼があったから」が1.8パーセントとなり、仕事の関係により、又は家族以外の第三者からの依頼により候補者を選ぶ人は少ないことが分かります。

(6) 候補者の考えに対するとらえ方

問11 あなたは、候補者の考えを知るために、何か行動をしたことはありますか。《○一つ》

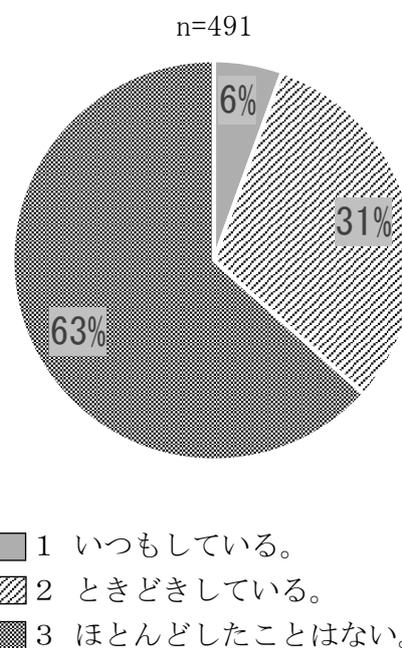
**6割が「ほとんどしたことはない」**

(人)

1	いつもしている。	27
2	ときどきしている。	153
3	ほとんどしたことはない。	311

候補者の考えを知るために行動をしたことがあるか尋ねたところ、「いつもしている」は6パーセント、「ときどきしている」は31パーセント、「ほとんどしたことはない」は63パーセントとなりました。

候補者を選ぶ基準として候補者の考えを重視しているものの、自ら情報の収集を行っている人は少ないことが分かります。

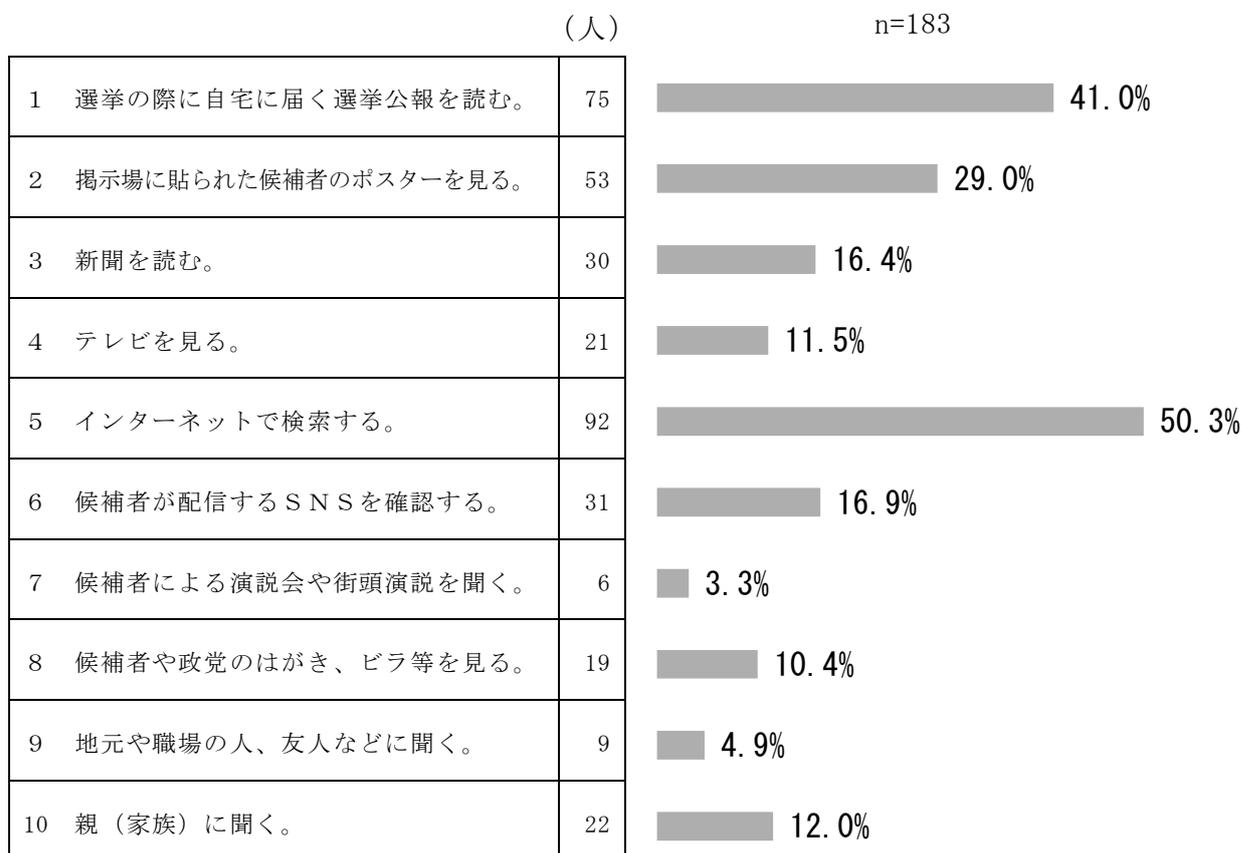


問12 ※問11で「いつもしている」「ときどきしている」と回答した人にお伺いします。

あなたは、どの手段により候補者の考えを知ろうとしましたか。

《あてはまるものすべてに○》

### 5割がインターネット、4割が選挙公報

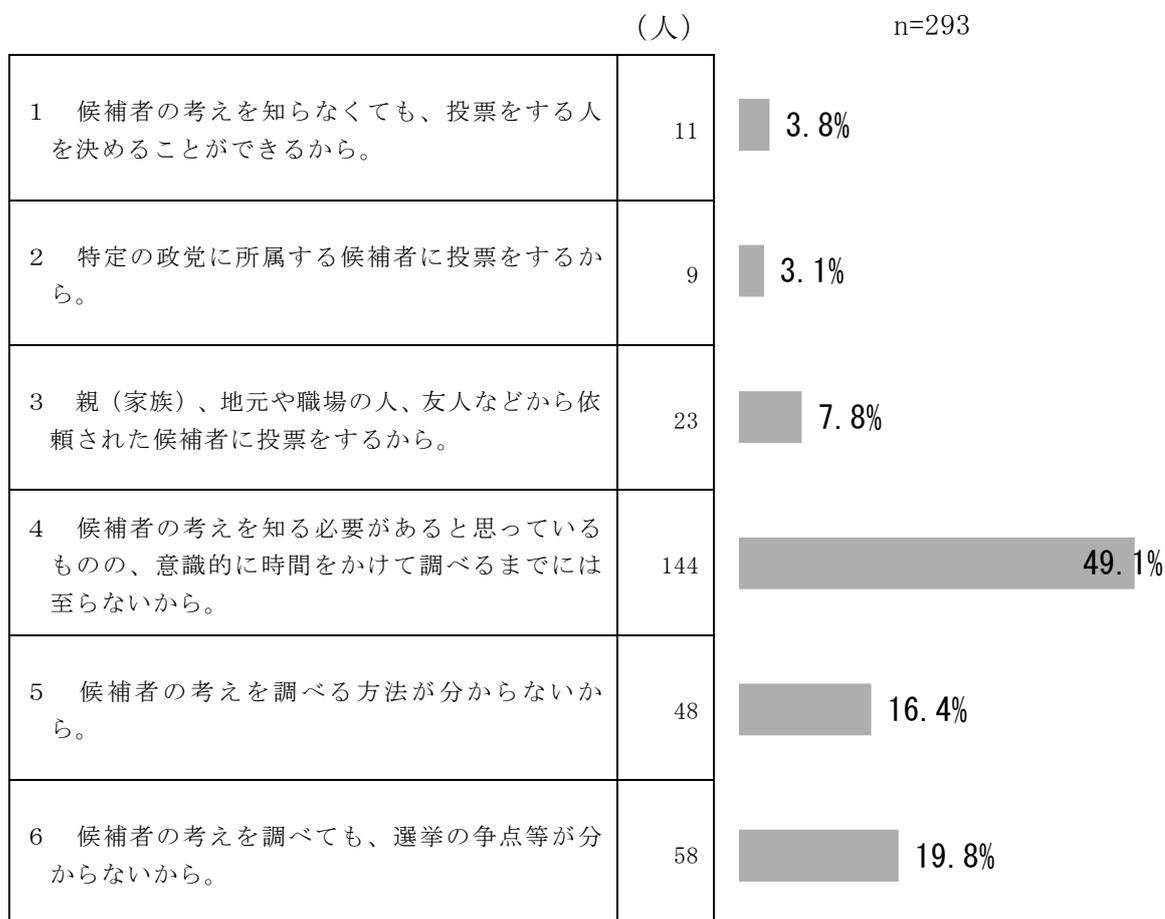


候補者の考えを知るために行動をしたことがある人に、どの手段により候補者の考えを知ろうとしたか尋ねたところ、「インターネットで検索する」が50.3パーセント、「選挙の際に自宅に届く選挙公報を読む」が41.0パーセントとなりました。一方で、「新聞を読む」が16.4パーセント、「テレビを見る」が11.5パーセントとなり、自らが知りたいときに調べることができるインターネット及び選挙公報の割合が比較的多いことが分かりました。

「地元や職場の人、友人などに聞く」が4.9パーセント、「候補者による演説会や街頭演説を聞く」が3.3パーセントとなり、政治や選挙のことについて周囲の人と議論したり、直接候補者の主張を聞いたりすることはあまりしない傾向が分かります。インターネット等から情報を収集し、それらの情報を基に自ら考え、周囲の人とその考えを議論したり共有したりせず自らの価値観で投票をしている傾向が読み取れます。

問13 ※問11で「ほとんどしたことはない」と回答した人にお伺いします。  
 あなたが候補者の考えを知ろうとしない理由は何ですか。《○一つ》

**5割が「意識的に時間をかけて調べるまでには至らない」**



候補者の考えを知るために行動をしたことがほとんどない人に、その理由について質問したところ、「候補者の考えを知る必要があると思っているものの、意識的に時間をかけて調べるまでには至らないから」が49.1パーセントを占めました。候補者の考えを知る必要性を感じているものの、仕事、学業等で忙しいこともあり、主体的に情報収集を行うには至っていない人が多くいることが分かります。一方で、「候補者の考えを知らなくても、投票をする人を決めることができるから」が3.8パーセント、「特定の政党に所属する候補者に投票をするから」が3.1パーセント、「親（家族）、地元や職場の人、友人などから依頼された候補者に投票をするから」が7.8パーセントといずれも割合が低く、候補者の考えを知らなくても投票することができると考えている人は比較的少ない傾向にあることが分かります。

「候補者の考えを調べても、選挙の争点等が分からないから」が19.8パーセント、「候補者の考えを調べる方法が分からないから」が16.4パーセントとなり、選挙において候補者に関する情報が分かりづらい点を挙げる人も一定数あります。

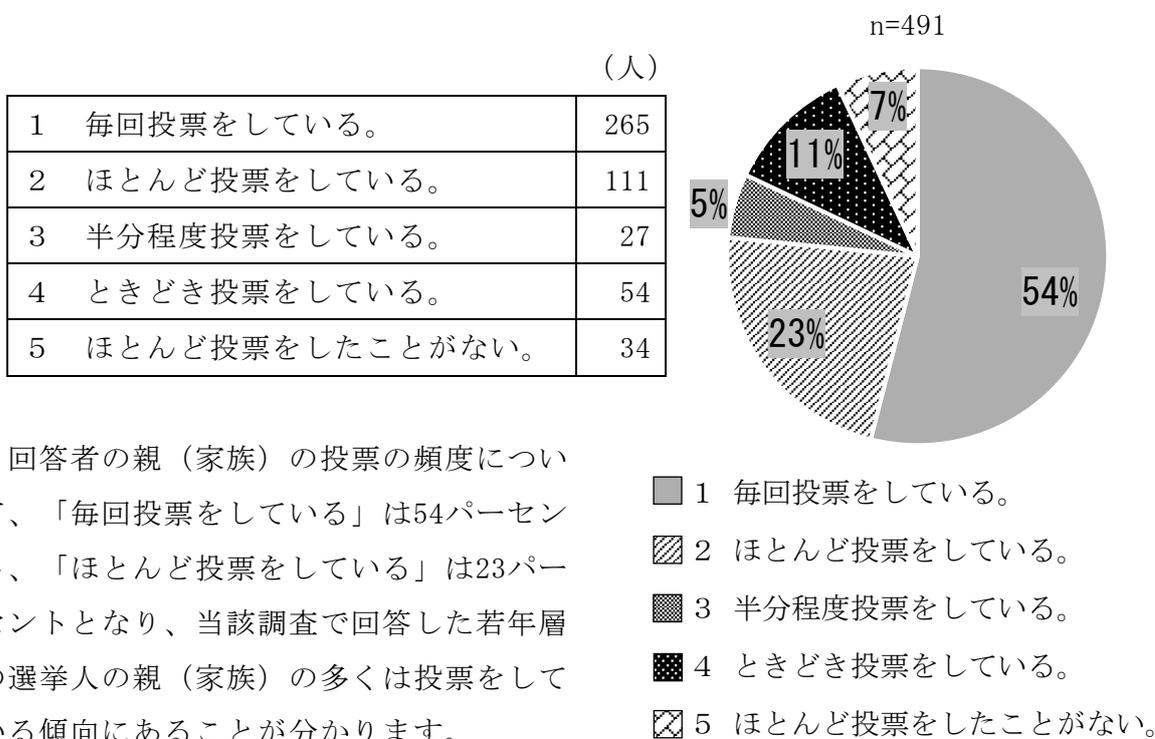
**【候補者の考えを知ろうとしない理由を尋ねた自由記述（主なものを抜粋）】**

- ・地元ではないから。
- ・言っていることが大まかすぎて具体的に何をしてくれるのか伝わらなかったの  
で見ただけ無駄だと思ったから。
- ・候補者の考えを分かりやすく比較、解説をしている情報がないから。
- ・候補者が当初の考えどおりに活動しないから。
- ・候補者の考えを調べても、内容理解が難しく、善し悪しが分からないから。
- ・何を見れば候補者の考えが分かるのかが分からないから。

(7) 選挙における親（家族）との関わり

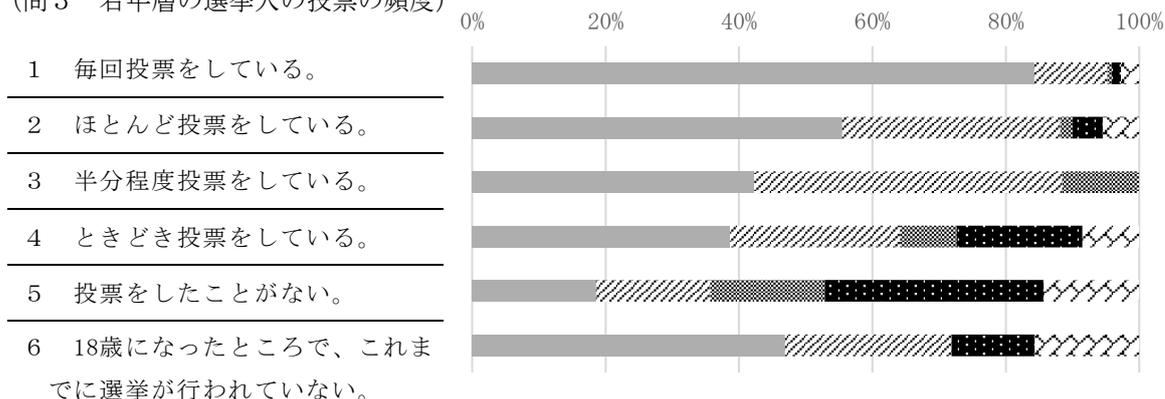
問14 あなたの親（家族）は、各選挙の投票をしていますか。《○一つ》

**親（家族）の投票率が高いと、その若年層の投票率も高い**



【若年層の選挙人及びその親（家族）の投票の頻度の関係性】

(問3 若年層の選挙人の投票の頻度)



(問14 若年層の親（家族）の投票の頻度)

- 1 毎回投票をしている。
- ▨ 2 ほとんど投票をしている。
- ▩ 3 半分程度投票をしている。
- ▣ 4 ときどき投票をしている。
- ▤ 5 ほとんど投票をしたことがない。

(人)

問3 (若年層) 問14 親(家族)	1 毎回投票をしている。	2 ほとんど投票をしている。	3 半分程度投票をしている。	4 ときどき投票をしている。	5 ほとんど投票をしたことがない。
1 毎回投票をしている。	123	16	1	2	4
2 ほとんど投票をしている。	61	36	2	5	6
3 半分程度投票をしている。	11	12	3	0	0
4 ときどき投票をしている。	42	27	9	20	9
5 投票をしたことがない。	13	12	12	23	10
6 18歳になったところで、これまでに選挙が行われていない。	15	8	0	4	5

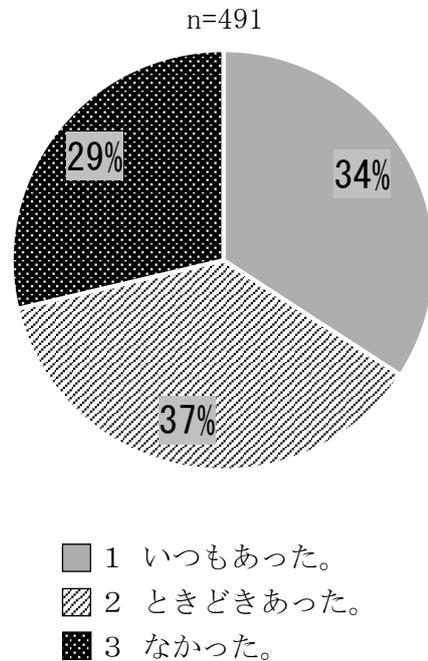
「毎回投票をしている」と答えた若年層の選挙人のうち、その親が「毎回投票をしている」と答えた割合は84.2パーセントであるのに対し、「投票をしたことがない」と答えた若年層の選挙人のうち、その親(家族)が「毎回投票をしている」と答えた割合は18.6パーセントとなり、若年層の選挙人の投票率とその親(家族)の投票率は比例する傾向にあり、強い相関関係にあることが分かります。

問15 あなたは、親（家族）から投票に行くように言われたことがありますか。  
《○一つ》

**親（家族）から投票に行くよう声掛けがあると、その若年層の投票率は高い**

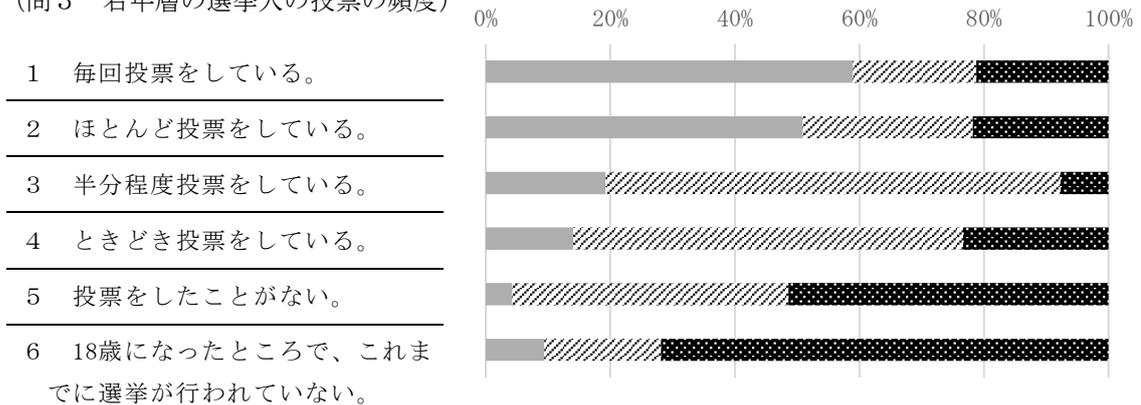
		(人)
1	いつもあった。	168
2	ときどきあった。	182
3	なかった。	141

親（家族）から投票に行くように言われたことがあるか尋ねたところ、「いつもあった」は34パーセント、「ときどきあった」は37パーセント、「なかった」は29パーセントとなりました。



**【若年層の選挙人の投票の頻度とその親（家族）からの声掛けの頻度の関係性】**

(問3 若年層の選挙人の投票の頻度)



(問15 若年層の親（家族）からの声掛けの頻度)



(人)

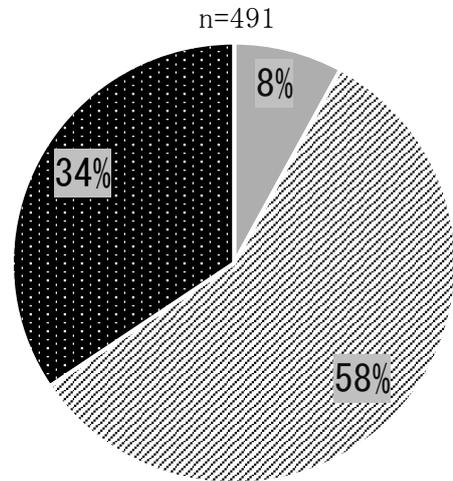
問3 (若年層)	問15 親(家族)	1  いつもあつた。	2  ときどきあつた。	3  なかつた。
	1  毎回投票をしている。		86	29
2  ほとんど投票をしている		56	30	24
3  半分程度投票をしている。		5	19	2
4  ときどき投票をしている。		15	67	25
5  投票をしたことがない。		3	31	36
6  18歳になったところで、これまでに選挙が行われていない。		3	6	23

「毎回投票をしている」と答えた人のうち、その親(家族)から投票に行くように言われた頻度について「いつもあつた」人の割合は58.9パーセントであるのに対し、「投票をしたことがない」と答えた人のうち、その親から投票に行くように言われた頻度について「いつもあつた」人の割合は4.3パーセントとなり、若年層の選挙人の投票の頻度とその親(家族)からの声掛けの頻度は比例する傾向にあり、強い相関関係にあることが分かります。

問16 あなたは、親（家族）と政治や選挙のことについて話したことがありますか。《○一つ》

**親（家族）と政治や選挙のことについて話している若年層の投票率は高い**

	(人)
1 よく話したことがある。	39
2 ときどき話したことがある。	283
3 話したことはない。	169



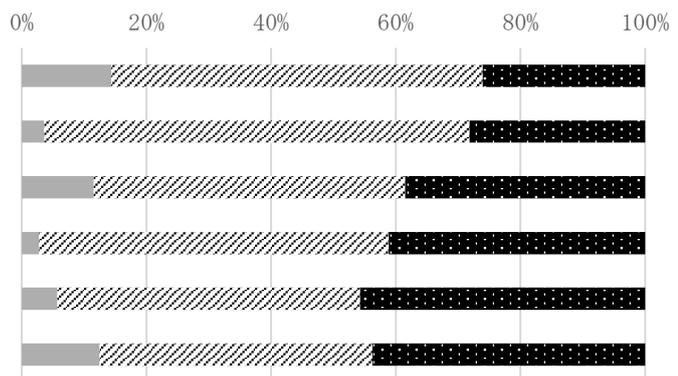
親（家族）と政治及び選挙のことについて話したことがあるか尋ねたところ、「よく話したことがある」は8パーセント、「ときどき話したことがある」は58パーセント、「話したことはない」は34パーセントとなりました。

- 1 よく話したことがある。
- ▨ 2 ときどき話したことがある。
- 3 話したことはない。

**【若年層の選挙人の投票の頻度と若年層の選挙人がその親（家族）と選挙や政治のことを話す頻度の関係性】**

(問3 若年層の選挙人の投票の頻度)

- 1 毎回投票をしている。
- 2 ほとんど投票をしている。
- 3 半分程度投票をしている。
- 4 ときどき投票をしている。
- 5 投票をしたことがない。
- 6 18歳になったところで、これまでに選挙が行われていない。



(問16 若年層の親（家族）と選挙や政治のことを話す頻度)

- 1 よく話したことがある。
- ▨ 2 ときどき話したことがある。
- 3 話したことはない。

(人)

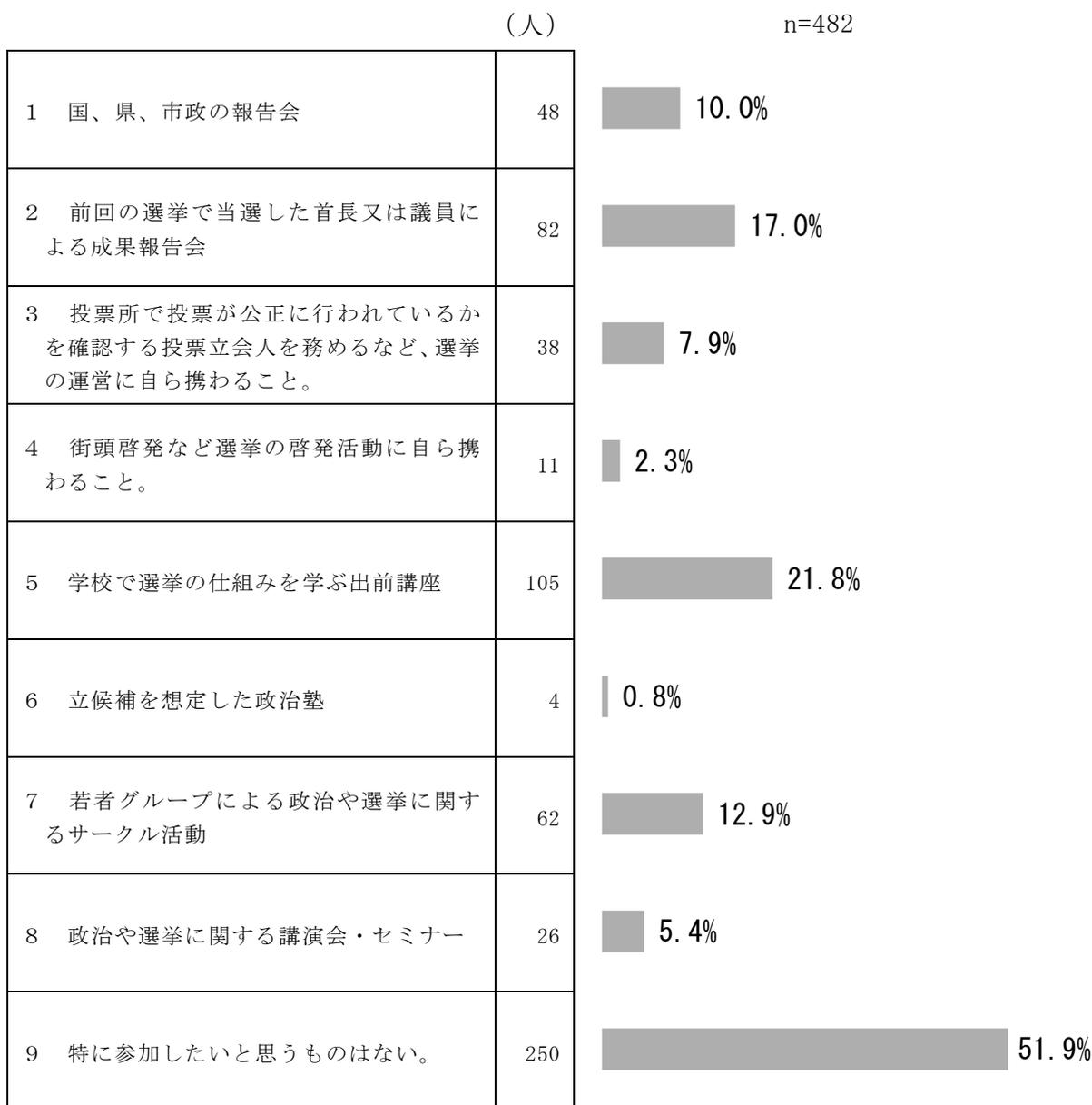
問3 (若年層)	問16 親(家族)	1 よく話した ことがある。	2 ときどき話 したことがあ る。	3 話したこと はない。
	1 毎回投票をしている。		21	87
2 ほとんど投票をしている。		4	75	31
3 半分程度投票をしている。		3	13	10
4 ときどき投票をしている。		3	60	44
5 投票をしたことがない。		4	34	32
6 18歳になったところで、これ までに選挙が行われていない。		4	14	14

若年層の選挙人の投票の頻度と若年層の選挙人がその親(家族)と選挙や政治のことを話す頻度の関係性について、「毎回投票をしている」と答えた若年層の選挙人のうち、親(家族)と政治や選挙の話をする頻度について「よく話したことがある」人の割合は14.4パーセントであるのに対し、「投票をしたことがない」と答えた若年層の選挙人のうち、親(家族)と政治や選挙の話をする頻度について「話したことはない」人の割合は5.7パーセントとなり、若年層の選挙人の投票の頻度と若年層の選挙人がその親(家族)と選挙や政治のことを話す頻度は比例する傾向にあり、一定の相関関係にあることが分かります。

(8) 参加したいと思う取組

問17 あなたは、政治や選挙に関して、どのような取組があれば参加したいと思いますか。《○三つまで》

**5割が「参加したいと思うものはない」**



政治や選挙に関して、どのような取組があれば参加したいと思うか尋ねたところ、「特に参加したいと思うものはない」が最も多く51.9パーセントとなりました。続いて「学校で選挙の仕組みを学ぶ出前講座」が21.8パーセントとなり、選挙や政治について学校で学びたいという意見が多いことが分かります。また、「前回の選挙で当選した首長又は議員による成果報告会」が17.0パーセントとなり、候補者の考え及び実績を知る機会を求める意見も比較的多い結果となりました。

【政治や選挙に関して参加したいと思う取組について尋ねた自由記述（主なものを抜粋）】

- ・わざわざ足を運んで聞きに行くのは大変だから、SNSや動画で配信し、かつ、配信が行われていることを周知したら知りやすい。
- ・選択肢からしてもやはりこういった政治に関わっている大人は今の若い人たちの事を理解していないと思う。
- ・前回の選挙時の目標と成果報告が簡潔に見られるサイトがあると参加しやすい。
- ・若者が選挙の大切さを発信してほしい。
- ・これからの若者には選挙、政治についての学習時間を作ってあげてほしい。
- ・選挙の後、何が変わったのかまとめてくれるサイトがあるとよい。
- ・候補者やそのスタッフの方と話や意見交換ができる場があれば参加したい。
- ・小学生でも分かるものすごく簡単な説明会の場があれば行ってみたい。
- ・各々の中学校及び高等学校に全ての候補者が訪問して、望む政策の理由などの講演会を開く。

(9) 選挙制度に対する認知度

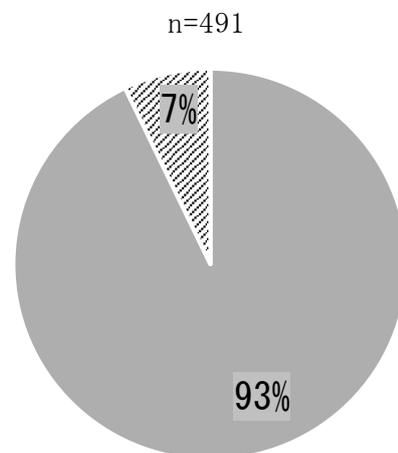
問18 あなたは、期日前投票制度を知っていますか。※期日前投票は、投票日当日に用事があるときに、事前に投票ができる制度です。《○一つ》

**9割が「知っている」**

(人)

1 知っている。	456
2 知らない。	35

期日前投票制度について、「知っている」は93パーセント、「知らない」は7パーセントでした。平成28年に東近江市選挙管理委員会が実施したアンケートでは、期日前投票制度を「知らない」と答えた10代は12.5パーセント、20代は4.3パーセントであるため、認知度についてあまり変化がないことが分かります。



■ 1 知っている。 ▨ 2 知らない。

問19 あなたは、あなたの住んでいる地域にかかわらず、東近江市内のいずれの期日前投票所でも投票ができることを知っていますか。《○一つ》

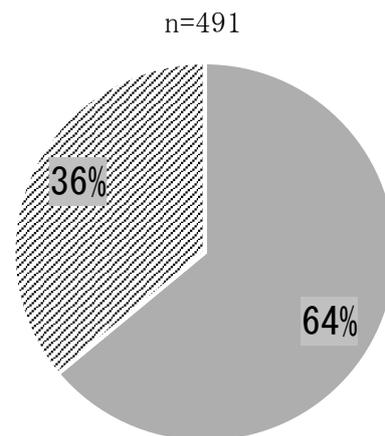
**6割が「知っている」**

(人)

1 知っている。	314
2 知らない。	177

市内のいずれの期日前投票所でも投票ができることを知っているかどうか尋ねたところ、「知っている」は64パーセント、「知らない」は36パーセントとなりました。

平成28年に東近江市選挙管理委員会が実施したアンケートでは、市内のいずれの期日前投票所でも投票できることについて「知っている」と回答した10代は71パーセント、20代は61パーセントであるため、認知度についてあまり変化がないことが分かります。



■ 1 知っている。  
▨ 2 知らない。

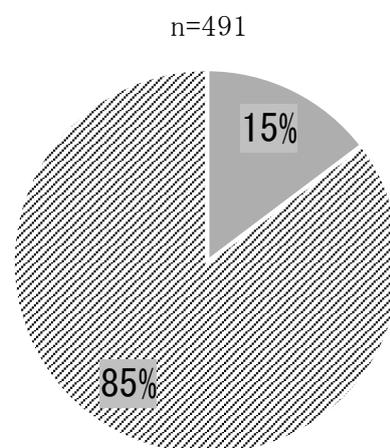
(10) 支持政党等

問20 あなたは、支持している特定の政党がありますか。《○一つ》

**9 割弱が支持政党なし**

(人)	
1 ある。	72
2 ない。	419

支持している政党の有無について、「ある」は15パーセント、「ない」は85パーセントとなりました。当該調査には、特定の政党を支持していない人から比較的多くの回答を得ていることが分かります。



■ 1 ある。 ▨ 2 ない。

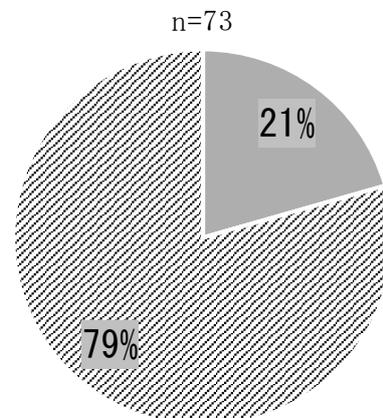
問21 ※問20で「ある」と回答した人にお伺いします。

あなたは、どの程度その政党を支持していますか。《○一つ》

**支持の程度は、8割が「それほどでもない」**

(人)	
1 強く支持している。	15
2 それほどでもない。	58

特定の政党を支持している人に、支持の程度について質問したところ、「強く支持している」が21パーセント、「それほどでもない」が79パーセントとなりました。



■ 1 強く支持している。  
▨ 2 それほどでもない。

(11) 投票率を上げるための取組

問22 あなたは、投票率を上げるためには何をしたら効果があると思いますか。  
《自由記述》

投票率を上げるためには何をしたら効果があるか自由に意見を述べてもらうため自由記述欄を設けたところ、当該調査に回答した491人のうち、294人から意見がありました。それぞれの意見を分類し、主なものを抜粋して掲載しています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
候補者及び政党に関する事	43件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治家のイメージアップ</li> <li>・選挙の前に言っていることを実行する実行力がないとその政党や政治家を信用することができないので、当選したら選挙前に言ったことと違うことを言うのをやめてほしい。</li> <li>・若年層が支持をしたくなる候補者が増えれば投票に行こうと思う人が増えると思う。企業に行き演説してる人もいるので、ただ選挙カーが走ってるよりも耳を傾ける機会が多くなると思う。</li> <li>・当選した候補者がもっと市民・県民（特にこれからを担う若い世代）の声に耳を傾け、政治に反映していくべき。どれだけ声を上げて政治が変わらないなら議会にも選挙にも意味がないと思う人が増えて、投票率は下がる一方になってしまうのでは。</li> <li>・若い有権者の選挙意欲を高めるために、より遠い将来を見越した具体的な政策を提示し、かつ若者が理解しやすいような取組を行う。</li> <li>・具体的なエピソードを示す。「子どもを安心して育てられる社会にする」とかではなく、「子どもを産んでも所得の低さで他人から責任不足等の批判を受けないように、高校までの授業料全額免除するなど所得が限りなく零でも子どもを育てられるようにする」など</li> <li>・選挙に立候補する人は遠い存在だと感じており、掲げた政策は当選後にしっかり進めてくださってるのか、そもそもの人物像を知らないため正直信じられない部分も大きい。なので、地域のイベントに積極的に参加したり挨拶運動を</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<p>したり、日頃から地域の人と関わられるようにして下さっていると、その人の人柄や地域の人を大切にしようとする気持ちが伝わり、この人に投票したい！と思えると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同年代の人が政治家になれば自然と耳を傾ける。</li> <li>・ 行きなさい、行かなければいけないという発信の仕方ではなく、行かなければいけないんだ、行こうと思わせるような発信の仕方。政治のイメージが真面目で堅すぎる。文字や言葉だけで伝えるのではなく、写真や図、アニメ風など視覚的に分かりやすく、興味を引き付けるような表現の仕方での発信してほしい。候補者の高齢者へ向けた公約が目立つ。若い世代、子育て世代への支援を公約とした候補者がたくさん出てこなければ、若い世代は自分たちの事を考えてくれていると思えない。結果、選挙へ行って投票しても自分たちの世代にはメリットがないと感じてしまう。</li> <li>・ 本当に市民を大切にできるなら正直誰でも良い、私腹を肥やす人には何も期待しない。</li> <li>・ 若者たちに興味を持ち、影響を与え、この人なら任せられるような演説をする人を増やしたほうがよいと思う。</li> <li>・ 高齢の層に向けたものではなく若い層にプラスに働くことをする。候補者がもっと今の時代や若者のこと（特に金銭面）を理解してくれればおのずと投票率は上がると思う。</li> <li>・ まず、いろいろな考えがあるのは分かるが、国が裕福にならないと無駄な気がする。国をも変える力のある人が出てくると良い。</li> <li>・ 若者向けの政策を掲げる立候補者がいることと、その人がSNSなど若者の目につきやすい場所で政策について発信することが1番だと思う。</li> <li>・ 具体的な政策を掲げ、かつ、それを毎回当選した人は実行していく。</li> <li>・ しっかり自分の考えをもってる若い人が立候補したら。古い考えの人ばかりでは投票しても意味はない。</li> <li>・ 政治や政治家との距離感が縮まるようなことがあるといい。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的な政策ではなく、長期的に見て効果があるような政策を打ち出すことが大切だと思う。</li> <li>・テレビで見る議員がどうしてもいいやり取りをしているのを見ると政治に興味がなくなっていくので、まずそこを無くして欲しい。</li> </ul>
候補者の考えや実績が分かる。	34件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットで候補者のプロフィール、考えなどが全部分かり、そのまま投票できたら若者世代の投票率はすごく上がると思う。</li> <li>・候補者の考えがどのようなものなのか、他の候補者とどう違うのかというところが分からず、誰に投票するか悩んでしまう。全候補者の考えを調べている時間を確保することは難しいので、手軽に全候補者の考えが分かれば投票に行こうという気持ちになると思う。</li> <li>・候補者同士で意見を競うトークショーのようなものがあれば多少は関心が行くのではないか。今の選挙の広報では地味だと感じる。</li> <li>・それぞれの党が今までどのような事をやろうとして、その結果どのようなようになったのかを知れるようになったら投票率が少しは上がると思う。</li> <li>・ネット上で候補者の政策を確認しても子供や高齢者へのサポート政策に言及している人が多く、悪いことではないが、どこか自分には現時点であまり関わりのないことのように感じ、この人が良いと思える人がいない。子供や高齢者に加え、働く世代に対してもどのようなことを行うか、予想されるメリットなどをもっとネット上の広報等でも出せると候補者の中から選び投票したいと思える。</li> <li>・候補者それぞれがどのような主張をしているのか簡単にまとめて、深く考えなくても理解できるようにすれば難しいイメージが無くなるのではないか。私は難しいイメージが強くて投票を迷うので、誰もが気軽に投票できるような雰囲気になれば良いと思う。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙によって選ばれた候補者たちがそれぞれどのような成果を残しているかが明確に示されれば、投票の重要性をより認知できると思う。</li> <li>・選挙によって何が改善され、何が依然として問題として残っているのか。誰が当選したかどうかよりもその後の経過が知りたい。</li> <li>・政党を比較する表などがあれば分かりやすい。同性婚に反対か賛成か、教育費無償化に反対か賛成かなどが分かると良い。</li> <li>・自分たちが今どんな状況で、それに対してこの党（又は立候補者）がどうしたいかを明確にした分かりやすいリストなどがあれば投票しやすいのでは。詳しいことは興味を持ってから調べてもらって、まず始めの取っ掛かり部分を強化しないとイケないと思う。</li> <li>・政治セミナーを定期的を開催することや若者に限らず東近江市の現状などを考慮して今の政治に必要な政策を提案してくれる人の話を聞く機会を設ける。</li> <li>・立候補者の考えなどをショート動画などにしてアップされれば、調べ方が分からない人も見ようと思えるかもしれない。立候補者が当選した時に何をするのが理解できれば、投票しやすい。</li> <li>・政治や政党というだけで敷居が高く感じるため、そのイメージを誰でも入れるコンビニ程度まで下げる必要があると思う。街頭演説よりも様々な方法・場所で候補者や政党と若者の意見交換ができる場を設けたら良いのではないか。模擬選挙で選挙の体験をするよりも、政治や政党を身近に感じてもらう方が良いと思う。</li> </ul>
選挙に関する教育・考え方について	20件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙に対して学校や職場などで学べる機会を作り、政治の知識を付ける。知識だけではなく考え方を学びたい。</li> <li>・高校の授業で選挙のことについて学んで「やらないとイケないんだ。」と強く実感したのでもっと学校でそのような授業を行えば良いと思う。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生への選挙、政治の学習機会の提供。我々のようにろくに教育を受けていなければ、選挙の重要性が分からない。今後の若者に普及していくことでゆっくりではあっても若者の投票率が上がるのではないかと思う。若者を選挙に引き入れることで若い世代を支えることができる政治家が日の目を浴びられるのではと思う。</li> <li>・ 若年層に自分たちの意見が反映されることの重要性について知ってもらおう。</li> <li>・ 現役政治家が参加する、模擬選挙</li> <li>・ 選挙の重要性をもっと義務教育の中で伝える。選挙ができる年齢になる前から、実際の選挙の前にどの候補者に票を入れるか考えたりする機会を設け、身近に選挙を感じるようにする。</li> </ul>
選挙の啓発の方法及び内容について	22件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちの世代は投票の価値が頭では分かっているが、行動に出さなくてはいけなくなるまでは投票に行かない人が多いと思う。このことから、投票をしたいと促せる人や、選挙人に今後の危機感を感じさせる情報が必要だと思う。</li> <li>・ 自分の将来がどうなってもいいのなら投票に行かなくてもいいとストレートに伝えて危機感をあおる。</li> <li>・ 選挙の結果が生活に影響することを印象付ける。</li> <li>・ 具体的な案は思い浮かばないが、市の政策や国の政策に少しの疑問や思想を持つことが大切だと思う。自分が投票した人が当選されようが、されまいが、もっとこうしてほしい等の希望は、あくまで選挙に参加した人が言えることだと思う。市や国から恩恵を受けているのだから、選挙で投票する義務は私たち市民（国民）が果たすべきだと思う。希望を持たないから、選挙に行かないという人もいるが、まず自分の暮らす市町村を変えてより良い街として、後世に継いでいきたいのであれば、選挙に参加することはとても重要なので、もっと人の心に響くような宣伝をしてほしい。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは大抵日常に埋もれていると自分の身の回りのことしか考えられなくなる。政治が変われば自分の生活圏内がどう変化していくのか、それをより具体性を持った例で説明するなどすればもしかしたら選挙に行こうという動機が少しでも湧き出てくるのではないかと思う。</li> <li>・店や職場で選挙が行われることを知れたら良いと思う。</li> <li>・選挙の期日が近づくと携帯電話に通知が届くようなサービスがあれば忘れることがないのではないか。</li> </ul>
選挙人にとって投票する利点がある。	41件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投票証明書を見せればさまざまなお店で割引等が受けれるようにする。</li> <li>・投票するごとに何かのポイントがもらえて、ポイントで何かと交換できる。</li> <li>・しが割のような生活の支えになる特典があるといいと思う。</li> <li>・ふるさと納税のように何かもらえると投票率が上がると思う。</li> <li>・投票に行きたいと思ってもらえるように、ちょっとしたお菓子などの目に見えて投票者に得があるようなことをする。</li> <li>・コンビニなどで簡単に投票できるようにする。そのままコンビニの割引券がもらえる。</li> </ul>
身近に投票ができる。	17件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投票場所を職場に設置する。</li> <li>・引きこもりでも投票できる方法があれば。</li> <li>・スーパーマーケットやコンビニに投票所を設ける。</li> <li>・スーパーや図書館など簡単に気軽に生活の中で必然的に行かないと行けない場所で投票ができれば。ついでの感覚で手軽に投票ができると思う。</li> <li>・遠方に住んでいるため、投票をしやすくして欲しい。今はマイナンバーカードがあるので、遠方にいても最寄りの自治体で投票できる仕組みを作って欲しい。</li> <li>・学校や大学で投票できるようにしたら良いと思う。</li> <li>・郵便投票などを検討ではなく実施してみればどうか。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・期日前投票をいろんな場所でできるようにすれば、行く手段がない人でも行きやすい。</li> </ul>
インターネットで投票ができる。	50件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が選挙に参加しない大きな理由は投票会場に行く手間が挙げられる。選挙の公平性を保つのに簡単に実現するかは分からないが、インターネット投票を普及させることで、投票への敷居を下げるとともに、投票率の向上につながると感じる。</li> <li>・アプリを導入し、一人のユーザーにつき一人だけしか投票できないシステムを普及させる。若い人はもちろん投票所に行きにくい人もスマホさえあれば投票できる仕組みにすることで投票率も上がると思う。</li> <li>・賛否分かれるところでもあり、技術的な問題もあるが、ネットを通じた投票ができれば、時間帯や場所を問わず政治参加が可能なのではないか。実際、こうしてアンケートも郵送ではなくネットでできたことで、負担感が軽減されている。仕事で忙しいのに、投票所にわざわざ投票しに行く気になれない。期日前投票もあるけれど、結局時間を作って投票所に行かなければならない。候補者の情報はネットで公開されているのだから、そのままネット上で投票できれば、若者の投票率も上がると思う。</li> <li>・マイナンバーなどを使い、ネットから選挙投票できるようにしてほしい。</li> </ul>
選挙制度を改める。	24件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務化すればいいと思う。若い人は政治について興味がない。それはなぜかと言うとメリットがないから。どうせ投票しても何も変わらないと思っている人がほとんど。</li> <li>・投票の権利の年齢は18歳からで問題ないが、その上限を作り未来ある若者の意見が中心となる政治にできるようになれば、自身の意見が反映されると理解した若者は投票に行くと思う。</li> <li>・住宅地内に向けた選挙カーの大音量での政治活動をやめる、あれは不快感を買うだけのものだと思う。商業施設周辺や国道を往復している方がよい。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢別人口割合に応じた一票の価値の是正。現状、仮に若者が高齢者と同じ投票率に上がったとしても、若者より高齢者の方が人口が圧倒的に多く、高齢者層が支持する候補者や政党が有利であることに変わりはない。この制度が変わらない限り政治家も高齢者層優遇の政策ばかり打ち出すこととなるため、将来に希望が持てないままとなる。</li> <li>・18歳から議員になれるようにする。</li> <li>・投票記載台に名簿が貼り付けてあるが、顔写真も一緒に載せた方がいいと思う。</li> <li>・投票率が低いのは若者の政治離れが大きな要因だと思う。そもそも若者と年寄りでは母数に差がありすぎるため「自分一人の投票で結果は変わらない」と考える若者が多いのではないか。全ての世代の意見を反映するためには、世代ごとの代表投票や抽選投票で母数を平等にする必要があると思う。</li> <li>・投票しない人は増税される。</li> <li>・自治会の掃除のように不参加料や税金上乘せ、罰金といったムチと記念品等のアメが必要</li> <li>・政治（選挙の仕組み）がもっと分かりやすくなると良いと思う。学校の学習だけでは、理解しきれなかった。</li> <li>・投票日を休日にする！（投票した人のみ対象とする。）</li> <li>・今の若者は支持政党がないから投票しない人が多い。つまり今の政治家は支持されるようなことをやっていない。政治家が変わらなければ何をしようとして若者は投票しない。どうしても投票率を上げたいならば、投票しないことにペナルティを課せば効果はある。</li> <li>・投票率が50パーセント以下の場合は、再投票制にする。</li> </ul>
その他	43件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会の一般質問は固い印象が強すぎるため、かみ砕いて分かりやすくしたものを TikTok や SNS で発信したら分かりやすいと思う。また、一般質問に興味を持って耳を傾けてもらえたら、選挙に対してもより身近に感じられて興味が湧くと思う。一般質問さえまともに見てないのに、選挙</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<p>だけ行くという選択肢は投票率が低い若者にとってハードルの高いものだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者に投票したい！と思わせるような演説をする。難しい言葉ではなく、18歳でも分かるような言葉で具体的に。私は自分の意思で1度だけ投票に行こうと思ったことがある。それは学校で選挙について学んだときだ。だから、そのような授業を増やすと投票率が上がるのではないだろうか。また、投票する際のあの緊張感が苦手な人もいると思う。具体的には思い付かないが、あの空気感を変えれば、投票率も上がる気がする。</li> <li>・テレビでもネットでももっと若者が理解しやすい言葉や表現を使ってほしい。学生時代に詳しく学ぶ機会が与えられなかった身からすると意味が分からないことばかり。結局老人たちが投票をして老人たちが当選するんだろうと思う。そもそも候補者、政治そのものが世代交代していくべき。一般企業に定年退職があるように政治にも導入すべき。</li> <li>・そもそもこうやって投票率を上げる方法を若者に聞こうとする前に自分たちでなぜ若者が投票に行かないか考えて行くように行動するべき。そもそも選挙や政党や派閥が分かりにくすぎる上に日本という国が何を目指しているのかも分からない。政治をしている人たちが何をしたいのかも分からない。自分たちが国から何をされていて何をしているのかも分からない。何も分からないようにできていると感じる。いちいちくだらないことを気にして堅苦しい制度ばかりを大切にしているから誰もついて行こうとしない。本当に日本のこれからのことを考えるならこの馬鹿げた全ての制度や政治や報道を変えるべきだ。ただ文句を言いたいのではなく、事実として、今ぼく達は政治を行っている人が何をしていた何を指して何をしようとしているのか分からない。こんな意識調査をしても回答する人はごくわずかであり、回答結果も当てにならない。だからまず自分たちで国民と一体感を出す方法を考えてほしい。</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビや紙媒体は高齢の方には馴染みのあるものであるが、若者には届きにくい面がある。若者の投票率を上げるには、若者に知らせやすく参加しやすい環境を整える必要がある。そのため、インターネットでの告知や投票を可能にする環境整備が必要と考える。投票にはマイナンバーを活用してもいいのではないか。また、候補者に対する年代別の投票率を算出し、若者はどの政策方針を支持しているのかが分かれば、各世代が必要としている政策が浮き上がるのではないかと考える。それを参考にして政策を決めていくなら、たとえ落選した人に投票しても、参考にしてもらえる并希望を持って投票できるかもしれない。</li> <li>・ 若者が多く集まる場所やイベントに議員が顔を出して交流する。立会人を学生にしてもらおう。投票証明書を集めたいようなデザインのカードにする。</li> <li>・ 議会の内容を動画配信で市民が分かるような仕組みを取り入れてほしい。議会で投票した人が議会でしっかりと活動しているかを確認したい。議会で市民の興味のあるような話題をピックアップして動画でまとめて配信してほしい。</li> <li>・ まず、任意アンケートに自由記述する性質の人間から得るデータは、投票しない若者の意見とは異なることを明記する。ある個人にとって、投票に関わる行動全てにかかるコスト（以下「投票コスト」という。）が投票したことで得られる利益（以下「投票成果」という。）と比べて釣り合っている場合、投票率が高まると考えられる。したがって、投票コストを下げることで、投票成果を上げる方法を考えるべきだと思う。投票コストを下げる方法として、投票方法の周知を挙げる。期日前投票の用紙とともに、期日前投票を行う場合の流れを図化したチラシを同封すると分かりやすいと思う。また、投票用紙への記入例は自宅でも簡単に確認できると望ましい。投票成果を上げる方法は、各候補者の打ち出す政策を分かりやすくする方法が最も堅実だと思う。インターネットで選挙に関する情報を探す際、もっと手軽に情報を閲覧したい。サイトに掲載されているのが</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		<p>いつの選挙の情報なのか、現行の一覧形式では分かりづらい。また、スマートフォンの場合、選挙公報をPDFでダウンロードする現行の形式は見づらい。人によっては自分の住む地域がどの選挙区なのか、いつ選挙があるのか、調べなければ分からないかもしれない。そのほか投票成果を上げる方法は、投票コストを下げる方法と比べてあまり現実的ではないと思う。現行の投票方法で解決するのが難しいためである。例えば記念品など報酬を用意するのは、選挙管理側のリスク・コストが大きい上、投票のきっかけにはなりづらい。選挙公報は「経済」「子育て」などある程度項目に分けた上で様式に当てはめてもらえる方が、投票理由を決めやすいが、候補者の自由記述で得られる情報とトレードオフとなるだろう。一有権者としては「候補者の実績や人柄は好ましいが一部の政策に否定的な場合」「死票に対する徒労感」が悩ましいと感じるが、若者の投票率のみに関わる問題ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変に若者に合わせた、又はすり寄ったような広告をされると少し嫌悪感を感じると思う。立候補者の方々が大人として信用できるカッコいい姿を見せてくださったら、もっと政治に対する興味や投票への関心が湧くのではないかと思う。私自身投票に行くきっかけとしては、家族に声を掛けられることが1番大きな要因になっていると感じる。</li> <li>・ 一人一人の一票が与える影響の大きさを若者が知れたら効果があるのではないかと思う。また、選挙で自分達の生活が変化することを体験できたらなと思った。投票しても変化を実感できないので、経費はそんなにかけずに、選挙による結果で生活の変化を体験してみたい。</li> <li>・ 投票履歴がマイナンバーと連動してインターネットで確認できる。</li> <li>・ 投票所をお祭り会場のようにする。</li> </ul>

### 3 総括

#### (1) 回答者の属性

- ・ 高校生が6パーセント、大学生が22パーセント、社会人が68パーセントで、回答者は社会人の割合が多くなっています。
- ・ 18歳から20歳までが22パーセント、21歳から23歳までが21パーセント、24歳から26歳までが27パーセント、27歳から30歳までが30パーセントで、年齢が高いほど多くの回答を得ています。

#### (2) 投票の頻度及び投票をしない理由

- ・ 48パーセントが半分程度又はあまり投票をしていないと回答しています。
- ・ 半分程度又はあまり投票をしていない人のうち、49パーセントが「どの候補者が当選しても社会や政治の変化を実感できない」こと、32パーセントが「候補者の考えがよく分からない」ことを投票をしない理由に挙げています。

#### (3) 選挙啓発

- ・ 令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、選挙があることを知っていた人は56パーセントであり、選挙の認知率を向上させる必要があります。
- ・ 選挙があることを知っていた人のうち、63パーセントが自宅に届いた選挙のお知らせ（投票所入場整理券）で、33パーセントが掲示場に貼られた候補者のポスターで、31パーセントが親（家族）から聞いて、選挙があることを知ったと回答しています。
- ・ 認知の効果が高い選挙のお知らせ（投票所入場整理券）で、選挙に関する情報を適切かつ効果的に伝える必要があります。
- ・ 選挙の啓発の方法について、53パーセントが「SNS等のインターネット広告」が効果があると回答しています。
- ・ 滋賀県議会議員一般選挙でYouTubeの広告を行いました。SNS等を活用した広告を積極的に行う必要があります。

#### (4) 投票の動機

- ・ 投票の動機になることについて、55パーセントが「候補者の考えが分かる」こと、44パーセントが「現職の候補者が前回選挙の当選後にどのような活動をしたかが分かる」こと、32パーセントが「学校や職場で投票ができる」こと、26

パーセントが「市内の店舗の商品を割引価格で購入することができる」こと及び「選挙の争点分かる」ことを挙げています。

- ・候補者の考えが掲載された選挙公報の認知率の向上のほか、候補者の考えが分かる情報が若年層の選挙人に届く手法を検討する必要があります。

#### (5) 特定の選挙における投票の実績等

- ・46パーセントが令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙で投票をしたと回答しています。
- ・当該選挙で投票をした候補者を選んだ理由について、45パーセントが「なんとなくその人がいいと思った」、27パーセントが「その候補者が地元の発展に貢献してくれると思った」、26パーセントが「その候補者の政策、主義、主張に賛同した」ことを挙げています。
- ・一方で、「地元の人や友人などからその候補者に投票するよう依頼があった」こと（1.8パーセント）や「職場でその候補者に投票するよう依頼があった」こと（0.9パーセント）を理由に挙げる人は少なく、候補者の考えを知り、投票をする人を自身の判断で選びたいという若年層の選挙に対する考え方が読み取れます。

#### (6) 候補者の考えに対するとらえ方

- ・候補者の考えを知るために、選挙のたびに「いつも行動をしている」人は6パーセント、「ときどき行動をしている」人は31パーセント、「ほとんど行動をしたことがない」人は63パーセントでした。
- ・候補者の考えを知るために、選挙のたびに「いつも」又は「ときどき」行動をしている人のうち、候補者の考えを知ろうとした手段について、インターネットと答えた人が50パーセント、選挙公報と答えた人が41パーセントでした。
- ・候補者の考え知ろうとしたことがほとんどない人は、その理由について、49パーセントが「候補者の考えを知る必要があると思っているものの、意識的に時間をかけて調べるまでには至らない」、20パーセントが「候補者の考えを調べても、選挙の争点等が分からない」、16パーセントが「候補者の考えを調べる方法が分からない」ことを挙げています。
- ・候補者の考えを知り、投票をする人を自身の判断で選びたいと思っているものの、①忙しいため自ら積極的に時間をかけて調べることはしていない、②調べる方法が分からない、③調べても分からないという課題があることが分かります。

#### (7) 選挙における親（家族）との関わり

- ・若年層のいる親（家族）の投票の頻度について、「毎回投票をしている」人は54パーセント、「ほとんど投票をしている」人は23パーセントでした。
- ・若年層の選挙人の投票率とその親（家族）の投票率は比例する傾向にあり、強い相関関係があります。
- ・親（家族）から投票に行くように言われた頻度について、「いつもあった」人は34パーセント、「ときどきあった」人は37パーセントでした。
- ・若年層の選挙人の投票の頻度とその親（家族）からの声掛けの頻度は比例する傾向にあり、強い相関関係があります。
- ・親（家族）と政治や選挙のことについて話す頻度について、「よく話したことがある」人は8パーセント、「ときどき話したことがある」人は58パーセントでした。
- ・若年層の選挙人の投票の頻度と若年層の選挙人がその親（家族）と選挙や政治のことを話す頻度は比例する傾向にあり、一定の相関関係があります。
- ・親（家族）の選挙に対する意識や行動が、若年層の選挙人の選挙に対する考え方に大きな影響を与えることを周知し、若年層のいる親（家族）の選挙に対する意識の向上を図る必要があります。

#### (8) 参加したいと思う取組

- ・参加したいと思う政治や選挙に関する取組について、52パーセントが「特に参加したいと思うものはない」、22パーセントが「学校で選挙の仕組みを学ぶ出前講座」、17パーセントが「前回の選挙で当選した首長又は議員による成果報告会」、13パーセントが「若者グループによる政治や選挙に関するサークル活動」となりました。

#### (9) 選挙制度に対する認知度

- ・期日前投票制度を知っている人は93パーセントでした。
- ・住んでいる地域にかかわらず、市内のいずれの期日前投票所でも投票ができることを知っている人は64パーセントでした。

#### (10) 支持政党等

- ・支持している政党がある人は15パーセントでした。
- ・支持している政党がある人のうち、強くその政党を支持している人は21パーセントでした。

18歳から29歳までの東近江市民対象

# 選挙に関する意識調査



選挙は、国民が政治に参加する最大の機会です。国民の様々な意見や要望は、自らが選挙で選出した代表者によって国や地方の政治に反映されます。しかしながら、若年層の投票率が極めて低く、国民や市民を代表するにふさわしい人を選ぶ権利を行使しない人が多い状態が続いており、民主主義の根幹を揺るがす危機的な事態となっています。

このため、東近江市選挙管理委員会及び東近江市明るい選挙推進協議会では、若年層の投票率の向上につなげたく、18歳から29歳までの市民の皆様から2,400名を無作為に抽出し、選挙に関する意識調査を実施することといたしました。

この調査の趣旨を御理解いただき、回答に御協力くださいますようお願いいたします。

なお、必ず宛名に記載されている本人様が回答してください。また、お答えいただきました内容は、統計的に処理し、個人情報の保護に関する法律に基づき適切に取り扱います。

令和5年10月

東近江市選挙管理委員会  
東近江市明るい選挙推進協議会  
(東近江市総務部総務課内)

令和5年4月9日に執行された滋賀県議会議員一般選挙における東近江市の年代別投票率及び投票者数を別紙(グラフ)で添付しています。

## 1 回答方法

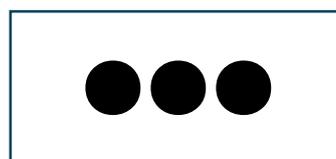
①インターネット又は②書面のいずれかの方法により回答してください。

① インターネットで回答する場合は、次の二次元コードをスマートフォン等で読み取り、Google フォームにアクセスし、回答してください。設問の冒頭に「回答 I D」を入力する画面がありますので、必ず入力してください。

**この二次元コードを読み取って、  
回答フォームに移動してください。**



**あなたの回答 I D**



② 書面で回答する場合は、紙の調査票をお送りしますので、「7 問合せ先」まで連絡してください。

## 2 回答期限

**令和5年11月27日（月）まで**

## 3 調査の概要

- (1) 設問数 22問
- (2) 回答に要する時間 10分から15分程度

## 4 個人情報の取扱い

この調査は、順不同で付番した「回答 I D」で回答の内容を管理するため、特定の個人と回答の内容が結び付くことはありません。

## 5 回答の内容の利用目的

回答の内容は、この調査の集計及び分析作業に限り利用します。

回答の集計結果及び分析内容は、投票率の向上のための事業、効果的な選挙啓発その他の選挙行政の推進のためにのみ利用します。

## 6 その他

回答期限までに回答いただいた方の中から抽選で合計10名に「6 個入りジェラート」（東近江市近江匠人認証制度認証済）をお送りします。当選した方には、後日事務局から郵便で連絡します。

## 7 問合せ先

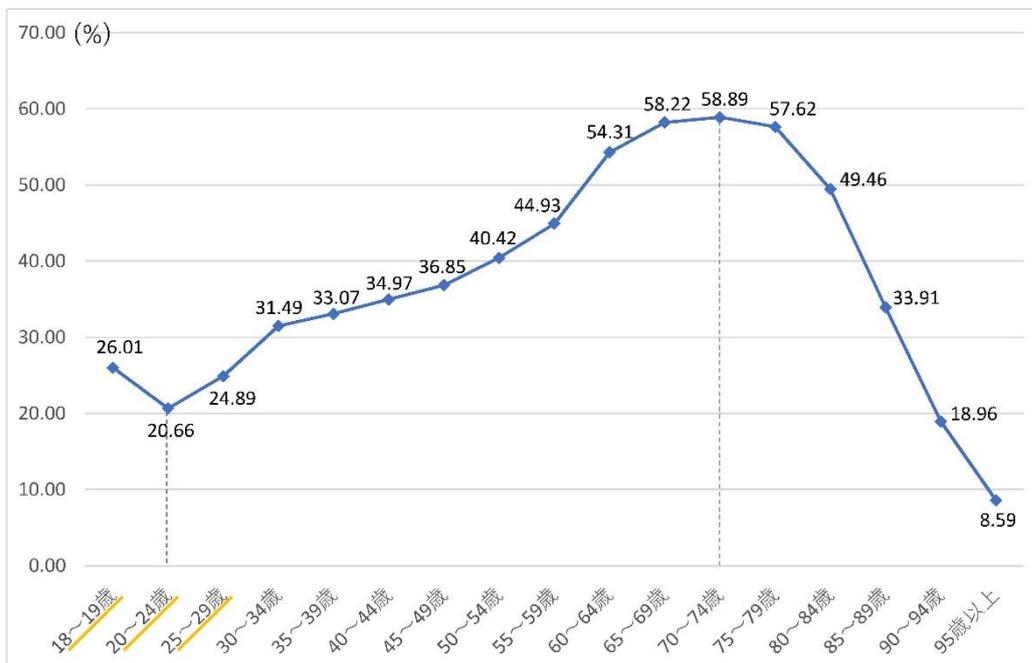
東近江市選挙管理委員会・東近江市明るい選挙推進協議会  
(東近江市総務部総務課内)

I P 電話 050-5801-5600 電話 0748-24-5600

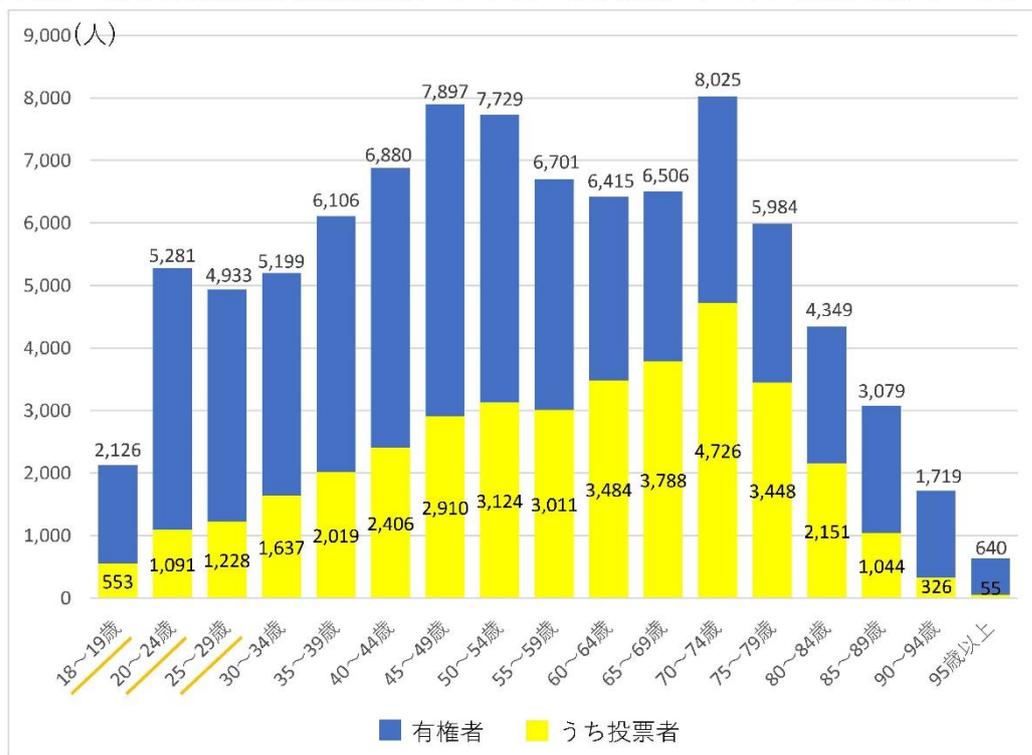
FAX 0748-24-0752 メール somu@city.higashiomi.lg.jp

## 令和5年4月9日執行滋賀県議会議員一般選挙

年代別 投票率 (市全体 41.31%)



年代別 有権者数及び投票者数 (市全体 有権者数89,569人 投票者数37,001人)



20歳から24歳まで	投票率：20.66%	投票者数：1,091人
70歳から74歳まで	投票率：58.89%	投票者数：4,726人

**【問 1】**

あなたについてお伺いします。  
(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 高校生
- 2 大学生（短期大学生を含む。）・  
専門学生・大学院生
- 3 社会人
- 4 その他

**【問 2】**

あなたの年齢を教えてください。  
(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 18歳～20歳
- 2 21歳～23歳
- 3 24歳～26歳
- 4 27歳～30歳

**【問 3】**

あなたは、これまでの選挙において、どの  
程度投票をしていますか。

(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 毎回投票をしている。
- 2 ほとんど投票をしている。 } → 問 5 へ
- 3 半分程度投票をしている。
- 4 ときどき投票をしている。
- 5 投票をしたことがない。
- 6 18歳になったところで、これまでに選挙  
が行われていない。 → 問 5 へ

**【問 4】**※問 3 で「3 半分程度投票をして  
いる。」「4 ときどき投票をしている。」  
「5 投票をしたことがない。」と回答し  
た人にお伺いします。

あなたが投票をしない理由は何ですか。  
(該当するものの番号に最大三つまで○を

付けてください。)

- 1 自分が一票を入れても選挙の結果に影響はないと思うから。
- 2 どの候補者が当選しても社会や政治の変化を実感できないから。
- 3 投票する人を選ぼうと思っても、候補者の考えがよく分からないから。
- 4 特定の政党や候補者の支持基盤により、選挙の結果が決まってしまっていると感じるから。
- 5 投票をしたいと思える候補者や政党がないから。
- 6 現在の社会に一定程度満足していて、投票で意思を表示しなくてもよいと思うから。
- 7 勉強、スポーツ、仕事、子育て、交友関係などに注力していて、選挙に対してそこまで気が回らないから。
- 8 選挙の盛り上がりを感じられず、投票をする意欲に欠けるから。
- 9 市内に住んでいるが、投票所までの距離が遠い、投票所まで行く手段がない等、投票所へ行くことが難しいから。
- 10 学校や職場が市外等の遠方にあり、投票をすることが難しいから。
- 11 選挙が執行されること自体を知らないことが多いから。

■その他（※自由記述欄）

(※上記のほか、投票をしない理由がある場合、その内容を記述してください。)

次のページの**【問 5】**に進んでください。

**【問5】**

令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、あなたは、選挙があることを知っていましたか。

(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 知っていた。
- 2 知らなかった。 → 問7へ

**【問6】**※問5で「1 知っていた。」と回答した人にお伺いします。

あなたは、令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙があることをどの方法で知りましたか。

(該当するものの番号に○を付けてください。複数可)

- 1 自宅に届いた選挙のお知らせ(投票所入場整理券)
- 2 自宅に届いた選挙公報
- 3 掲示場に貼られた候補者のポスター
- 4 テレビや新聞の選挙報道
- 5 インターネットの選挙報道
- 6 自宅に設置されている防災情報告知放送システムの戸別受信機による音声放送
- 7 自治会の回覧文書
- 8 市の広報紙「広報ひがしおうみ」
- 9 市のLINE配信
- 10 YouTubeの広告
- 11 JR能登川駅及び近江鉄道八日市駅における選挙の街頭啓発
- 12 市内の公共施設等に設置された横断幕、のぼり、チラシ、ポスター等
- 13 街頭を走る選挙カー
- 14 候補者の街頭演説や個人演説会
- 15 候補者や政党が配布したビラ、はがき等
- 16 スーパーマーケットの店内放送

17 啓発物品(ティッシュ、クリアファイル等)

18 親(家族)から伝え聞いた。

19 地元や職場の人、友人などから伝え聞いた。

■その他(※自由記述欄)

(※上記のほか、その他の方法で知った場合は、その方法を記述してください。)

**【問7】**

あなたは、新たにどのような方法による選挙のお知らせがあれば啓発の効果があると思いますか。

(該当するものの番号に○を付けてください。複数可)

- 1 電車やバスの車内における吊り下げ広告又は音声広告
- 2 ちょこっとバスのラッピング広告
- 3 SNS等のインターネット広告
- 4 スーパーマーケットでの街頭啓発活動
- 5 公共施設等に加え、市内各所にのぼり、横断幕、チラシ、ポスター等を設置
- 6 新たな手段による選挙のお知らせは、特に必要ない。
- 7 新たな手段による選挙のお知らせは必要であると感じるが、具体的な手段については分からない。

■その他(※自由記述欄)

(※上記のほか、新たに行うことが望ましいと思う選挙のお知らせの手段があれば、その内容を記述してください。)

**【問 8】**

あなたは、選挙においてどのようなことがあれば、投票をしようと思いますか。

(該当するものの番号に最大三つまで○を付けてください。)

- 1 選挙の争点分かる。
- 2 候補者の考え分かる。
- 3 現職の候補者が前回選挙の当選後どのような活動をしたかが分かる。
- 4 国、県、市政の日頃の動き分かる。
- 5 スーパーマーケット等で投票ができる。
- 6 学校や職場で投票ができる。
- 7 投票日当日に、市内にあるどの投票所でも投票ができる。
- 8 市内の店舗の商品を割引価格で購入することができる。
- 9 長年欠かさず投票をした人に対して記念品が贈られる。
- 10 親(家族)、地元や職場の人、友人などから投票に行くように言われる。
- 11 特に望むものはない。

■その他(※自由記述欄)

(※上記のほか、あなたにとってどのようなことがあれば投票をしようと思うか、その内容を記述してください。)

**【問 9】**

令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、あなたは投票をしましたか。

(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 投票をした。
- 2 投票をしていない。→問11へ

**【問10】**※問9で「1 投票をした。」と回答した人にお伺いします。

あなたが投票をした候補者を選んだ理由は何ですか。

(該当するものの番号に○を付けてください。複数可)

- 1 その候補者の政策、主義、主張に賛同したから。
- 2 その候補者が所属している政党の主義、主張に賛同したから。
- 3 その候補者が地元の発展に貢献してくれると思ったから。
- 4 その候補者が事業の上での利益を代表してくれるから。
- 5 その候補者が自分たちの言い分や立場を代表してくれるから。
- 6 その候補者が政治の現状を変えるのにふさわしい人物だと思ったから。
- 7 なんとなくその人がいいと思ったから。
- 8 職場でその候補者に投票するよう依頼があったから。
- 9 地元の人や友人などからその候補者に投票するよう依頼があったから。
- 10 親(家族)からその候補者に投票するよう依頼があったから。

**【問10】**の続き(次のページ)に進んでください。

■ その他（※自由記述欄）

（※上記のほか、特定の候補者に投票をした理由があれば、その内容を記述してください。）

**【問11】**

あなたは、候補者の考えを知るために、何か行動をしたことはありますか。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 いつもしている。
- 2 ときどきしている。
- 3 ほとんどしたことはない。 → 問13へ

**【問12】**※問11で「1 いつもしている。」

「2 ときどきしている。」と回答した人にお伺いします。

あなたは、どの手段により候補者の考えを知ろうとしましたか。

（該当するものの番号に○を付けてください。複数可）

- 1 選挙の際に自宅に届く選挙公報を読む。
- 2 掲示場に貼られた候補者のポスターを見る。
- 3 新聞を読む。
- 4 テレビを見る。
- 5 インターネットで検索する。
- 6 候補者が配信するSNSを確認する。
- 7 候補者による演説会や街頭演説を聞く。
- 8 候補者や政党のはがき、ビラ等を見る。
- 9 地元や職場の人、友人などに聞く。
- 10 親（家族）に聞く。

■ その他（※自由記述欄）

（※上記のほか、候補者の考えを知るために行動した手段があれば、その内容を記述してください。）

**【問13】**※問11で「3 ほとんどしたことはない。」と回答した人にお伺いします。

あなたが候補者の考えを知ろうとしない理由は何ですか。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 候補者の考えを知らなくても、投票をする人を決めることができるから。
- 2 特定の政党に所属する候補者に投票をするから。
- 3 親（家族）、地元や職場の人、友人などから依頼された候補者に投票をするから。
- 4 候補者の考えを知る必要があると思っているものの、意識的に時間をかけて調べるまでには至らないから。
- 5 候補者の考えを調べる方法が分からないから。
- 6 候補者の考えを調べても、選挙の争点等が分からないから。

■ その他（※自由記述欄）

（※上記のほか、候補者の考えを知ろうとしない理由があれば、その内容を記述してください。）

**【問14】**

あなたの親（家族）は、各選挙の投票をしていますか。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 毎回投票をしている。
- 2 ほとんど投票をしている。
- 3 半分程度投票をしている。
- 4 ときどき投票をしている。
- 5 ほとんど投票をしたことがない。

**【問15】**

あなたは、親（家族）から投票に行くように言われたことがありますか。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 いつもあった。
- 2 ときどきあった。
- 3 なかった。

**【問16】**

あなたは、親（家族）と政治や選挙のことについて話したことがありますか。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 よく話したことがある。
- 2 ときどき話したことがある。
- 3 話したことはない。

**【問17】**

あなたは、政治や選挙に関して、どのような取組があれば参加したいと思いますか。

（該当するものの番号に最大三つまで○を付けてください。）

- 1 国、県、市政の報告会
- 2 前回の選挙で当選した首長又は議員による成果報告会
- 3 投票所で投票が公正に行われているか

を確認する投票立会人を務めるなど、選挙の運営に自ら携わること。

- 4 街頭啓発など選挙の啓発活動に自ら携わること。
- 5 学校で選挙の仕組みを学ぶ出前講座
- 6 立候補を想定した政治塾
- 7 若者グループによる政治や選挙に関するサークル活動
- 8 政治や選挙に関する講演会・セミナー
- 9 特に参加したいと思うものはない。

■ その他（※自由記述欄）

（※上記のほか、政治や選挙に関して参加したいと思う取組があれば、その内容を記述してください。）

**【問18】**

あなたは、期日前投票制度を知っていますか。

※期日前投票は、投票日当日に用事があるときに、事前に投票ができる制度です。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 知っている。
- 2 知らない。

**【問19】**

あなたは、あなたの住んでいる地域にかかわらず、東近江市内のいずれの期日前投票所でも投票ができることを知っていますか。

（一つだけ番号に○を付けてください。）

- 1 知っている。
- 2 知らない。

次のページの**【問20】**に進んでください。

**【問20】**

あなたは、支持している特定の政党がありますか。

(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 ある。
- 2 ない。 → 問22へ

**【問21】** ※問20で「1 ある。」と回答した人にお伺いします。

あなたは、どの程度その政党を支持していますか。

(一つだけ番号に○を付けてください。)

- 1 強く支持している。
- 2 それほどでもない。

**【問22】**

あなたは、投票率を上げるためには何をしたら効果があると思いますか。

(自由に意見を記述してください。)

■自由記述欄

質問は以上です。  
御協力ありがとうございました。

18歳から29歳までの東近江市民対象  
選挙に関する意識調査結果報告書

発行年月 令和6年4月

発行 東近江市選挙管理委員会  
東近江市明るい選挙推進協議会  
(東近江市総務部総務課内)

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

I P 電話 050-5801-5600 電話 0748-24-5600